

公益財団法人日本テニス協会  
**アニュアルレポート 2019**

---

JTA Annual Report 2019



# JTAアニュアルレポート2019の発刊にあたって



公益財団法人日本テニス協会 会長

山西 健一郎

JTAアニュアルレポートは、日本テニス協会の活動と運営状況を広くテニス関係者、愛好者、協賛企業そして寄附者の皆様にお伝えする重要な情報発信ツールです。今年も2019年版を発刊するに当たり当協会を代表してご挨拶申し上げます。

私は本年4月より会長に就任いたしました。我が国は来年東京オリンピック・パラリンピックの開催を、そして当協会は2022年に創立100周年を迎えます。この時期に日本のテニスを統轄する中央競技団体の会長に就任することは私にとりまして大変名誉なことと思っています。また、日本選手の国際舞台での大活躍という輝かしいこの時期の就任となり、その責任の重さに気が引き締まる思いでいます。

私は会長就任に当たり、風通しの良い組織運営を通じた健全性と収益性を重視し、その基盤の上に組織としての成長を目指していくことをお約束しました。また、普及・育成・強化をリンクさせて拡大再生産の好循環を目指す「日本のテニスの中長期戦略プラン」を本年度より実行してゆきます。テニスに対する社会的関心の高まりを一過性のもので終わらせず、日本のスポーツ文化の代表的なスポーツとして少しでも発展するよう尽くしていく決意でいます。

今日のスポーツ界には、スポーツ・インテグリティの確保が求められています。当協会は公益法人化以降、ガバナンスの向上、コンプライアンスの徹底、試合における安全とフェアプレイの確保に向けた取組を行っており、今後一層のレベルアップを図りたいと考えています。

また、協会事業活動において、加盟団体との協働と協力団体との連携や当協会が加盟する内外の団体との協調は不可欠です。本年6月、当協会の事務所は国立競技場に隣接する新会館「ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア」に移転し執務環境が改善されました。また東京オリンピック・パラリンピックの開催により、有明テニスの森公園はインドアコートとショーコートも備えた総合テニス施設として生まれ変わろうとしています。こうした変化を契に、当協会は諸団体との対話を継続し、日本のテニス環境の向上に努めたいと思います。

テニス・ステークホルダーの皆様、そして全国のテニス愛する皆様、引き続き当協会の活動に対するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 日本テニス協会について

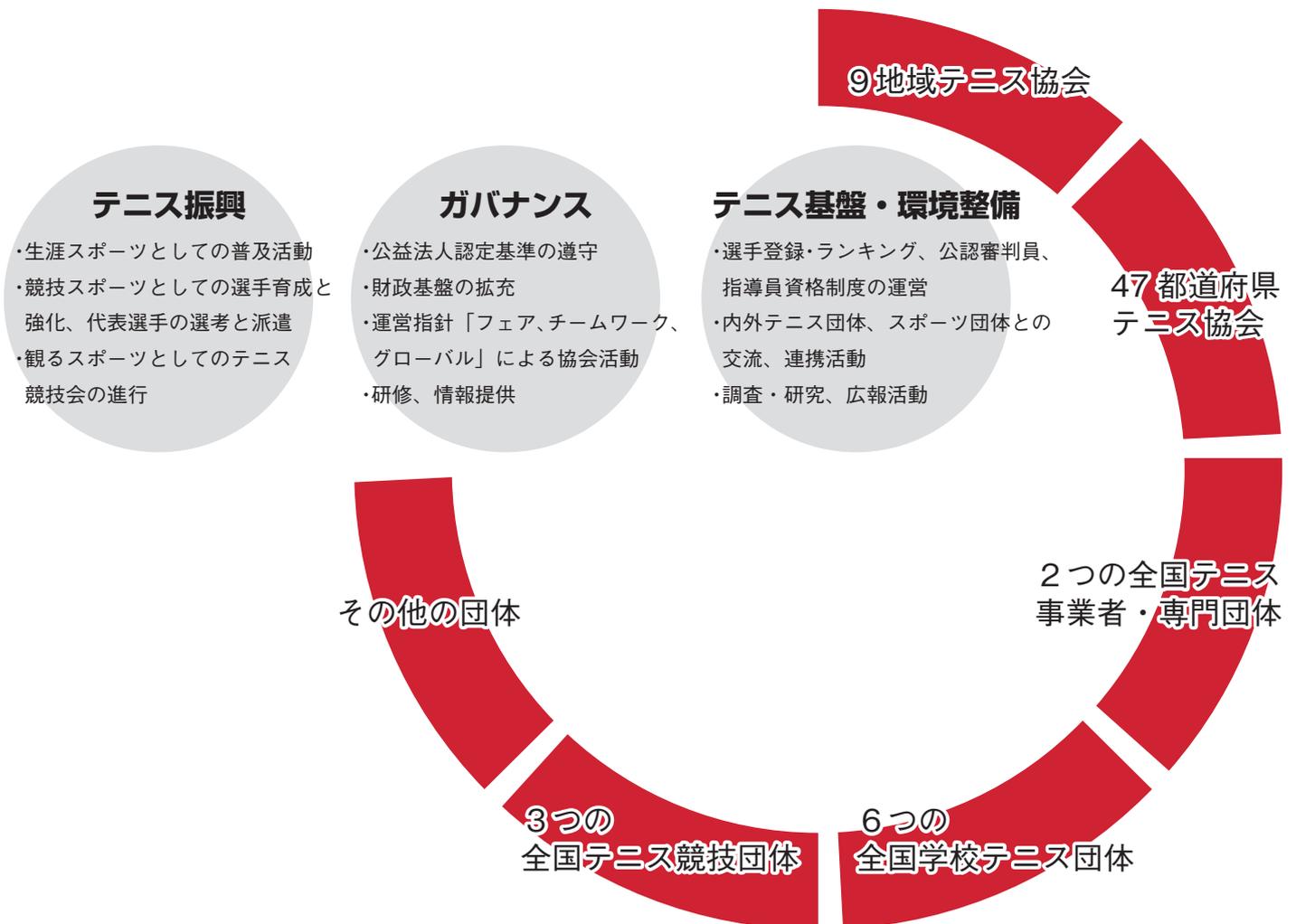
日本テニス協会（JTA）は、日本のテニス界を統轄し、代表する全国スポーツ競技団体（NF）です。1922年に発足、2012年に財団法人から公益財団法人に移行し、テニスの振興と発展をその活動の目的としています。

これらの活動は、強化、普及育成、事業、総務・財務の分野別本部と、そのもとに設置された36の専門委員会が事務局サポートの下で実施しています。

そして、400名を超える委員がボランティアとして委員会活動に参加しているのも、NFとしてのJTAの特徴ともいえます。

また、JTAは国内では日本オリンピック委員会、日本スポーツ協会に、国際的には国際テニス連盟、アジアテニス連盟に加盟し、一方、加盟団体として全国9ブロックを代表する地域テニス協会と47都道府県テニス協会を擁しています。

そして、2つの全国テニス事業者団体・専門団体、6つの全国学校テニス団体、3つの全国テニス競技団体との間では協力団体の関係を築いています。



## 活動目的

生涯にわたり誰でも参加できるテニスは伝統的な大衆スポーツで、オリンピック・パラリンピック競技スポーツという国際性を持ち合わせることから、国民スポーツとしての役割は大きいといえます。当協会はテニス振興をその公益活動目的に据え事業を行っています。

### 生涯スポーツとしての普及

テニス人口の裾野拡大のためにはTENNIS PLAY & STAYを通じた普及が鍵であると考えています。加えて、テニス競技の中体連加盟による中学校テニス活動の推進、選手登録・ランキング制度のジュニア選手・ベテラン選手への拡大適用、テニス指導者の養成も重視しています。またテニス界としての全国規模の連携イベント「テニスの日」に参加しています。



### 観るスポーツとしての振興

世界の多くの方がテニス観戦を楽しんでいます。日本においてもジャパン・オープン、パン・パシフィック・オープン、ジャパン・ウイメンズ・オープン、全日本テニス選手権などの国際・国内大会が開催されています。当協会もこれらの主要大会の多くを主催し、また、全国各地で開催される多くの競技会も公認・後援しています。



ジャパンウイメンズオープン



## 競技スポーツとしてのジュニア育成と選手強化

テニスの普及・育成・強化には中長期的な取り組みが不可欠とし、昨年、「日本のテニスの中長期戦略プラン」を策定しました。選手の育成・強化については、当面は東京オリンピックでのメダル獲得とデビスカップ・フェドカップでの競技力向上対応が施策の中心となります。ナショナルチームは、味の素ナショナルトレーニングセンターを拠点に競技力向上を図っており、日本スポーツ振興センターによる委託・助成事業、日本オリンピック委員会の補助・助成事業に加え、多くの企業からの協賛金、個人・団体からの寄附金、公益・一般財団からの助成・補助さらには大会出場選手からの協力によるワンコイン制度等からの支援を受けています。またジュニア選手の育成も本格化させ、ナショナル代表選手への移行を早めるための特別ジュニア強化プランの遂行や、フランステニス連盟及びオーストラリアテニス協会との相互協力覚書の締結による育成・強化分野での国際交流事業も行っています。



## ガバナンスの向上

- ・倫理規程と処分手続規程の整備や研修会
- ・eラーニング等を通じたコンプライアンスの徹底
- ・公式ホームページ等を通じた情報発信による開かれた活動
- ・公益法人としての認定財務3基準の遵守
- ・登録プロフェッショナル選手を対象とした法令遵守施策の採択
- ・違法行為・反倫理的行為再発防止策の策定
- ・日本テニス界のスポーツ・インテグリティ確保のための情報提供と啓発活動

## テニス基盤・環境整備

- ・選手登録制度の運営
- ・公認審判員制度の運営
- ・指導者資格の運営
- ・認定テニス・トレーナー制度の運営

# 2018年度の日本テニスを振り返る

## 大坂が全米、全豪を制して世界ランク1位に

大坂なおみが2018年の全米で日本選手として初めて四大大会シングルの優勝を果たすと、続く19年全豪でも優勝を飾り、男女を通じてアジア勢で初めてシングルス世界ランク1位となった。

18年全仏で第21シードと四大大会で初めてシードのついた大坂は、2年ぶりに初戦を突破したが、3回戦でマディソン・キーズ（米国）にストレート負け。2度目の出場だったウィンブルドンでも、アンゲリク・ケルバー（ドイツ）に敗れて2年連続で3回戦止まりだった。

しかし、3度目となる全米で快進撃を演じた。第20シードの大坂が優勝までの7試合でセットを失ったのは、4回戦のアーナ・サバレンカ（ベラルーシ）戦だけ。セリーナ・ウィリアムズ（米国）との決勝では、相手に対する判定を巡って会場が騒然とする場面もあったが、大坂は終始冷静さを失わずにプレーを続けて、四大大会24勝目を狙ったベテランを退けた。この優勝でトップ10入りした大坂は、その年の成績上位8人が出場するWTAファイナルにも、03年の杉山愛以来となる出場を果たした。

第4シードに入った19年全豪は、失セットが「1」だった全米とは違って、苦しい勝ち上がりだった。謝淑薇（中華台北）との3回戦、アナスタシア・セバストワ（ラトビア）との4回戦は、ともに第1セットを奪われながら逆転勝ちした。カリリナ・プリスコバ（チェコ）の準決勝、ペトラ・クビトバ（チェ



コ）との決勝は先行しながら追いつかれる展開だったが、精神的に崩れることなく、最後まで粘り強いプレーを貫いて四大大会2勝目をつかみ取った。四大大会初制覇からの連勝は、01年の全豪と全仏を制したジェニファー・カプリアティ（米国）以来の快挙だった。全豪優勝で21歳の大坂は1975年の現行制度になって以降、26人目の世界ランク1位の座についた。

## トップ10復帰の錦織が3年ぶりにタイトル獲得

故障から復帰した錦織圭は、18年全仏で地元のフランス勢3人を連破して勝ち上がったが、4回戦でドミニク・ティエム（オーストリア）のパワーに屈した。ウィンブルドンでは順当に勝ち上がって、3回戦でニック・キリオス（豪州）に快勝すると、4回戦ではエルネスト・ガルビス（ラトビア）との強打の打ち合いを制して、1995年の松岡修造以来となるベスト8進出を果たした。続く全米でも、ガエル・モンフィス（フランス）、ディエゴ・シュウォーツマン（アルゼンチン）らを下すと、準々決勝ではマリナ・チリッチ（クロアチア）に4時間余りの熱戦に競り勝って、2年ぶりのベスト4に進出した。11月にトップ10に振り返った錦織は、2年ぶりにATPツアー・ファイナルにも出場した。

19年のシーズン初戦となったブリスベン国際（豪州）では、決勝でダニール・メドベージェフ（ロシア）を破り、16年2月以来となるツアー優勝を果たした。錦織はツアー通算12勝目で、ツアー決勝での連敗を「9」で止めた。続く全豪では勝負強さを発揮して、1回戦、2回戦、4回戦とフルセットにもつれた試合をしぶとくものにしていった。中でもパブロ・カレ





photo:Hiroshi Sato

ノブスタ（スペイン）との4回戦は、2セットを先取されながら5時間余りのマラソンマッチの末の大逆転勝ちで、3年ぶりのベスト8をつかみ取った。ただ、18年のウィンブルドン準々決勝と全米準決勝、そして19年の全豪準々決勝は、いずれもノバク・ジョコビッチ（セルビア）に連敗した。全豪の黒星で錦織のジョコビッチ戦の連敗は「15」となった。

### 西岡が男子5人目のツアー優勝

男子では、17年3月に左ひざを痛めてツアーを離れていた西岡良仁が、18年1月に復帰を果たすと、10月の深圳（中国）でツアー初優勝を飾った。23歳の西岡は2回戦で若手の成長株デニス・シャポパロフ（カナダ）をフルセットで破ると、準決勝ではフェルナンド・ベルダスコ（スペイン）に逆転勝ち、決勝でもピエールユグ・エルベール（フランス）とフルセットを戦って、タイトルを勝ち取った。日本勢男子のツアー制覇は、松岡修造、錦織圭、杉田祐一、ダニエル太郎に続く5人目。同じ深圳の男子ダブルスでは、マクラクラン勉がジョー・ソルズベリー（英国）と組んで、17年楽天ジャパンオープン（東京）以来となるツアー2勝目を挙げた。

日本勢5人が世界ランクのトップ100に入る女子ダブルスで



photo:JTA

は、18年全仏で穂積絵莉／二宮真琴組が、日本人ペアとして四大大会女子ダブルスで初めて決勝に進出した。準々決勝では、同じ年の全豪を制したティメア・バボシュ（ハンガリー）／クリスティナ・ムラデノビッチ（フランス）組をストレートで破っての快挙だった。また、18年の東レ・パンパシフィック・オープン（東京）では、加藤未唯／二宮組が決勝でアンドレア・フラバーチコバ／バルボラ・ストリコバのチェコペアを破り、この大会で初めて日本人ペアでの優勝を飾った。

### デ杯は中国を下してファイナルに進出

18年2月のワールドグループ（WG）1回戦でイタリアに惜敗した日本は、ボスニア・ヘルツェゴビナを大阪に迎えてプレーオフを戦った。シングルスにダニエル太郎と西岡良仁、ダブルスにマクラクラン勉／内山靖崇のペアを起用した日本は、第1日のシングルスにダニエルと西岡が連勝、第2日のダブルスでもマクラクラン／内山組が快勝し、3連勝でプレーオフの勝利を決めた。最終日のシングルスでは、20歳の綿貫陽介が白星でデ杯デビュー戦を飾った。



16チームが1年をかけてトーナメント方式で戦ったデ杯WGは、19年、18チームが一堂に会して、1週間かけて優勝を決める「デ杯ファイナル」に大会フォーマットが変更された。19年2月にはデ杯ファイナルへの出場権をかけたファイナル予選が各地で行われ、日本はアウェーで中国と対戦した。シングルスとダブルスが3セットマッチとなり、シングルス4試合、ダブルス1試合を2日間で行う対戦方式だったが、日本はボスニア・ヘルツェゴビナ戦と同じく、西岡、ダニエルのシングルスとマクラクラン／内山のダブルスで臨んだ。第1日は第1試合で世界ランク66位の西岡が世界262位の李喆にストレート負けしたが、第2試合では世界69位のダニエル太郎が世界208位の張栢を下して1勝1敗だった。最終日はダブルスから始まったが、マクラクラン／内山組が第1セットを奪いながら中国ペアに逆転負けして、日本は1勝2敗と瀬戸際に追い詰めら

# 2018年度の日本テニスを振り返る

れた。しかし、第4試合で西岡が張昀に代わって出場した19歳のWU Yibingに快勝すると、勝敗を決める第5試合でもダニエルが李をフルセットで振り切って、日本が3勝2敗で逆転勝ちして、11月にマドリード（スペイン）で行われるデ杯ファイナルに進出した。

## フェド杯はワールドグループ2部に残留

14年以来5年ぶりにフェド杯ワールドグループ（WG）2部に出場した日本は19年2月、福岡県北九州市でスペインと対戦した。大坂なおみは欠場して、日本は日比野菜緒、土居美咲、奈良くるみ、二宮真琴、加藤未唯というメンバーで挑んだ。日本は日比野、土居、奈良と3人をシングルスに起用したが、世界161位でスペインチームのシングルス3番手ジョルジナ・ガルシアペレスの男子並みの高速サーブを武器にし



たパワープレーに押されて、土居と日比野が敗れ、シングルスは2勝2敗。最終試合のダブルスでも試合巧者の加藤／二宮組が、シングルスに続いて3試合目出場のガルシアペレスとマリアホセ・マルチネスサンチェスのペアのパワーに持ち味を封じられてストレート負け。日本は2勝3敗で敗れて、WG2部残留がかかるプレーオフに回った。

オランダとのWG2部プレーオフは、4月に大阪で行われた。日本はダブルスのペアをスペイン戦と変更、青山修子／穂積絵莉組に替えて臨んだ。対戦では第1日に土居と日比野がシングルスで連勝すると、最終日の第1試合でも土居がストレート勝ちして勝利を決めた。繰り上げて行われたダブルスでも青山／穂積組がオランダペアを破り、日本は4連勝でWG2部残留を果たした。

## 予選勝者のメドベージェフ、決勝で錦織を破り優勝

18年の楽天ジャパンオープンは、22歳のダニール・メドベージェフ（ロシア）が大会史上初めて、予選から出場して優勝を飾った。2年ぶりに出場した錦織圭は、1回戦で杉田祐一との日本人対決を制すると、2回戦で曲者ブノワ・パール（フランス）、準々決勝では若手成長株のステファノス・シチパス（ギリシア）、準決勝はリシャール・ガスケ（フランス）にすべてストレート勝ちして、優勝した14年以来4年ぶりに決勝に進んだ。一方、メドベージェフは安定したストロークを武器に、1回戦でディエゴ・シュウォーツマン（アルゼンチン）、準々決勝ではミロシュ・ラオニッチ（カナダ）というシード選手を退けて、ATP 500の大会で初めて決勝に勝ち上がった。決勝では198cmの長身から繰り出される相手サーブに苦しめられた錦織が、いいところなくストレートで敗れて、3度目の優勝はならなかった。



20歳の綿貫陽介は予選を突破して本戦出場を果たすと、1回戦でロビン・ハーセ（オランダ）に逆転勝ちして、ツアー大会で初勝利を挙げた。内山靖崇と組んで前回大会のダブルスで優勝しているマクラクラン勉は、ヤンレナルト・シュツルフ（ドイツ）とのペアで勝ち進むと、決勝ではレイベン・クラッセン（南アフリカ）／マイクル・ビーナス（ニュージーランド）組を破り、ペアを替えての2連覇を果たした。

## 広島に移ったJWOダブルスで穂積が初優勝

18年の花キューピットジャパンウイメンズオープンが広島に会場を移して開催された。シングルスに日本勢4選手が出場したが、1回戦を突破したのは日比野菜緒だけ。その日比野も、2回戦でトップシードの張帥（中国）に惜敗した。予選から出場の17歳アマンダ・アニシモバ（米国）が準決勝で張帥に競り勝って、ツアー大会で初の決勝進出を果たした。しかし、



決勝では32歳の謝淑薇（中華台北）が試合巧者ぶりを発揮してアニシモバを翻弄、ストレート勝ちしてツアー大会で6年ぶりの優勝を飾った。ダブルス決勝では、穂積絵莉／張帥組が加藤未唯／二宮真琴組を破り優勝した。

ジャカルタ・アジア大会は18年8月に行われた。若手主体で臨んだ日本は、男子ダブルスの島袋将／上杉海斗組と伊藤雄哉／綿貫陽介組、女子ダブルスの加藤／二宮組、混合ダブルスの林恵里奈／上杉組が、それぞれ銅メダルを獲得した。

### 男子はベテラン伊藤が2度目の優勝、女子の清水が初優勝

18年三菱全日本選手権の男子シングルス決勝は、30歳の伊藤竜馬が20歳の徳田廉大を破り、5年ぶり2度目の優

勝を果たした。初戦から危なげないプレーを披露して、セットを落とすことなく勝ち上がった伊藤は、決勝でも徳田につけ入るスキを与えず、第1セット途中から9ゲームを連取して快勝した。女子シングルスは20歳の清水綾乃が初優勝を飾った。決勝では硬軟織り交ぜた澤柳璃子のプレーに苦しめられたが、持ち味の強打でストレート勝ちした。24歳の澤柳は、3回戦で20歳の小堀桃子、準々決勝では17歳の内島萌夏、準決勝でも20歳の松田美咲と、若手を退けて14年に続く2度目の決勝進出だった。

男子ダブルスは、仁木拓人／今井慎太郎組が第1シードを守って優勝した。女子ダブルスは、アジア大会代表の林恵里奈／内島萌夏組がノーシードから優勝、混合ダブルスは清水悠太／清水綾乃組が制した。



テニスネット・防風ネット・防球ネット・その他スポーツネット  
及び修理のことなら、ぜひ鵜沢ネットにご相談、ご用命下さい。



鵜沢ネット株式会社



※写真のネットには、当社製品の練習用コースマスターを取り付けています。

## I 組織運営と事業報告

### 1. 組織運営

2018年度の本協会の組織運営は、前年度に再選された畔柳信雄会長を筆頭とした19名の業務執行理事と4本部体制で行われた。ここ数年慣例化している臨時理事会の12月開催により、2018年度においても理事会は3回開催され、2018年度の事業及び予算執行状況の確認と次年度に向けた人事面での準備も早々に開始できた。また会長及び業務執行理事で構成される常務理事会も8月を除き計11回開催された。そして、常務理事会による業務執行は、ボランティアを基本とした35の専門委員会等と事務局によるサポート体制により補完された。加盟団体、協力団体、本協会から推薦され評議員選定委員会で選任された69名の評議員で構成される評議員会は、2017年度の決算及び事業報告そして2019年度の事業計画及び収支予算書を決議し、本協会最高議決機関としての役割を果たした。

2018年度の本協会組織運営は、スタート時点ではかなりの不安要素を抱え、緊張感を以て新年度に臨むこととなった。東京オリンピック・パラリンピックに向けた有明改修工事に伴う主催大会会場確保の問題は、ジャパンオープンが武蔵野の森、ジャパンウイメンズオープンが広島、全日本は大阪、フェドカップは北九州と各地の協力を得て、大会収支も予想より好転し終了することができた。日本テニス界や協会の活動自体に極めて大きな影響を与える日本のエース、錦織圭選手の怪我回復についての心配は、錦織選手自身の努力により見事に復活を遂げ、更に大坂なおみ選手の世界トップへの大飛躍は2019年度の協会活動にとっても追い風となった。

スポーツ界全般では不祥事の続発によりスポーツ団体にとって再発防止が急務とされたが、本協会は「フェア・チームワーク・グローバル」を運営指針として、ガバナンスやコンプライアンスを重視した協会運営を継続してきた。またこれらの取り組みに試合におけるフェアプレイ向上と安全の確保を加えて、前年度末に「テニスにおけるインテグリティ確保への取り組み」の名の下にリスクマネジメントの視点からも運営を再点検したこともあり、この面でも大過無く2018年度を終わることができた。

こうした中、2018年度初めには本協会が入居する岸記念体育会館の解体計画が発表され、本協会も同年7月に事務所移転プロジェクトチームを立ち上げその準備に当たった。事

務所移転をJTA全体の課題解決に着手するプロジェクトと位置付け、今後50年のJTAに課された社会的使命を全うするための「働き方改革と効率化」に通じるジャンプ台とすることとした。事務所移転の準備は順調に進展し、本協会は2019年6月末に公益財団法人日本スポーツ協会及び公益財団法人日本オリンピック委員会が新たに建設する新会館「ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア」に移転する。移転は事務局員のみならず非常勤を含む役員や専門委員会メンバーさらにはテニス・ステークホルダーとの協働の基地として本協会組織運営に前向きな効果をもたらすことが期待される。また11月末には、テニスシーズンを締めくくるとしてJTAイベントとしてJTA選手表彰兼ディナーパーティーが開催され、2018年日本テニスを振り返り、併せて、テニス関係諸団体・関係者、協賛会社等とJTA役職員、ナショナルチーム選手・スタッフ、専門委員長との間の交流が図られた。

なお、2018年度の理事会決議により行われた規則制定及び改正は倫理規程の改正と文書管理規定の制定を含む8つに及んだ。また評議員会により、2019年度に予定されている事務所移転と役員改選を視野に入れて、本協会事務所の住所と名誉職に関する定款改正がなされた。

こうして2018年度は、有明改修による主催大会会場変更に伴う緊急予算の編成、スポーツ界での不祥事の多発、国際大会フォーマット改革等といった多くのチャレンジに遭遇した年度となった一方、大坂なおみ選手のグランドスラム2大会連続優勝そして世界ランキング1位の獲得という歴史的快挙もあり、テニス界は明るい形で前進し、同時に、日本テニス界一体となった協働、また本協会としても将来に向けた組織運営や活動に専念できた年度となった。

### 2. 事業活動

2018年度の本協会の事業規模は前年度より約5400万円少ない22億8000万円となった。有明テニスの森改修に伴い緊縮予算を組み、予算段階では前年の繰越益1億を活用し、寄附金取り崩しを含めて収支ゼロとした厳しい予算であったが、結果的には当初予算比で大幅に改善した。その結果、本協会は、公益認定財政基準の一つである収支相償基準を満たすため、2018年度決算において特定費用準備積み立てを行い、当初予算通りに収支均衡決算を行った。2018年度の収益面での改善は、本協会のメイン事業であるジャパンオープンの会場となった武蔵の森での様々な工夫によって、結果的にかなりの収支上の実績を上げることができたことと、ジャ

バンウイメンズオープンでスポンサーを獲得できたことが大きい。

重点施策としては、普及・育成・強化の着実な推進が継続された。普及では、身近にテニスを楽しんでもらえる環境作りとテニス人口の裾野拡大に向け、TENNIS P&Sの市区町村レベルへの浸透を継続した。また新たな施策として、学習指導要領の改訂に伴い全国の小学校におけるテニス普及に向けた取り組みを開始した。そして、永年の懸案であった日本中体連加盟問題も関東及び中国の地域中体連加盟の決定を受け2021年度の加盟が実現することとなった。

育成では、日本のテニスの中長期戦略プランの具体化に向けた活動を開始した。特に「普及→育成→強化」と続くパスウェイと各レベルでの指導者の役割を明確化し、国内指導者のネットワーク作りを推進するために、12月には中長期戦略プラン・ジュニア育成基本方針が戦略室より打ち出された。また、全国ジュニアランキング制度を着実に実施に移すためのジュニアJPIN制度の試験運用が開始され、2019年度の本格運用に向けた準備が行われ、普及・育成・強化の三本柱の中では少し遅れていた育成分野でも一定の前進をすることができた。

強化では、2020年東京オリンピックにおけるメダル獲得を目標に掲げて、その目標の実現に向けたナショナルメンバーを中心とした選手強化プログラムが日本スポーツ振興センターのJSC委託事業とJOC助成事業を中心に実施された。前述の錦織選手や大坂選手など個人の活躍に加え、デ杯では初開催となるファイナル進出、フェドカップではワールドグループ2部残留を果たした。また、2024年以降につながる特別ジュニア強化を代表とした5カ年選手強化プログラムも4年目事業として着実に実施された。コンプライアンス、試合におけるフェアプレイについては、「テニスにおけるインテグリティ確保」を新たな活動目的に据え、平成29年9月常務理事会決議に基づく「違法行為・反倫理的行為再発防止策」、セルフジャッジ5原則推進を含む試合におけるフェアプレイ向上運動、さらには夏の熱中症対策を含む大会における安全と安心対策がレベルを上げた形で実施された。

グローバル化対応では、フランステニス連盟(FFT)との相互協力覚書の下でFFT施設での選手トレーニングとFFTコーチによるTENNIS P&S講習、フランスでの指導者研修が行われた。また、アジア・オセアニア地域で尚且つ南半球にてグランドスラム大会を主催するテニス・オーストラリアとも、日本テニスの発展の潜在力を高め、併せて、この地域における日本テニス協会の立場を強化するために、本年1月相

互協力覚書を締結した。2019年に予定されていた国際トーナメントルール変更やデ杯の開催フォーマット開催に関する情報の収集と共有を行い、国内において国際大会を開催する主催者の皆様とのコミュニケーション並びにデ杯賞金配分を含めた対応を日本のテニス中長期戦略プランとの関連性を担保した形で開始した。

2018年度もスポーツ振興くじ助成事業として、テニス環境等実態調査を行い、大会における安全と安心、試合におけるフェアプレイへの取り組み、中学校テニス部活動指導員の活動に関するアンケート調査及び高齢者テニスの事例調査を行い、調査結果は報告書として公表した。また、公式ホームページ、アニュアルレポート、メルマガ等を通じて協会活動情報を発信し、英文ホームページを通して本協会の基本情報の海外向け提供を行った。

協会事業活動において、加盟団体との協働と協力団体との連携は欠かせない。2019年度においても、加盟団体である地域・都道府県テニス協会との対話に努め、日本プロテニス協会、日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟、テニス用品会との日本テニス連合での定期意見交換、全国学生テニス団体を含む協力団体との連携が継続された。

また、特に東京オリンピック・パラリンピックへの準備とスポーツにおけるインテグリティ確保において、スポーツ庁、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、日本スポーツ協会そして日本アンチ・ドーピング機構との連携も深め、東京オリンピック・パラリンピックを翌年に控え、特にテニス競技会場となる有明テニスの森公園の改修に関して国際テニス連盟、組織委員会そして東京都との緊密な連携も持たれた。こうして、2018年度は、事業面でも結果を出すことができた年となった。

こうしたことから、2019年度を前に、JTAの執行陣も世代交代し、また女性登用の推進も含めて、スポーツ団体に要請されているスポーツ・インテグリティに関わるガバナンス対応にも留意した上で、新しいフェーズのスタートする年に相応しい新執行部体制を整える対応もとられた。

# 2018年度日本テニス協会活動日誌

月	主な業務活動	主要イベント	
		国内	国際
4月	12日 常務理事会・本部長会議	10～14日 MUFG Jr(名古屋)	2～7日 Wjr女子AO予選(タイ) 9～14日 JrFCAO予選(マレーシア) 16～21日 JrDCAO予選(マレーシア) 21～22日 FC WGII PO 英国戦(兵庫)
5月	18日 常務理事会・本部長会議 28日 畔柳会長 東京都23区テニス協会 懇談会 29日 平成30年度通常理事会	17～20日 全国選抜Jr(千葉)	28～6/10日 全仏
6月	1日 畔柳会長 神奈川県テニス協会 懇談会 8日 平成30年度定時評議会 8日 平成30年度表彰伝達式 12日 日本テニス連合会合(日本テニス事業協会) 14日 常務理事会・本部長会議 19日 畔柳会長 関西テニス協会 懇談会 22日 畔柳会長 埼玉県テニス協会 懇談会	2日 悠遊テニス会(東京) 15～16日 P&S特別講習会(NTC) 17～18日 P&S特別講習会(江坂TC)	
7月	24日 常務理事会・本部長会議 29～30日 公認B級審判合同講習会(味の素NTC)	27～29日 全日本都市対抗(茨城) 27～30日 全小(東京)	2～15日 全英
8月		1～8日 インターハイ(四日市) 8～17日 全日本Jr(大阪) 9～19日 全日本学生(岐阜) 17～23日 グラスホバージュニアテニスカン ンプ(佐賀) 18～24日 全国中学生(広島) 21～23日 全国高専(大分) 24～26日 ビジネスパルB大会(福島)	6～11日 ワールドJr決勝大会(チェコ) 13～16日 ITF AGM(アメリカ) 19～9/1日 アジア大会(インドネシア) 23～29日 日韓中Jr(韓国・麗水市) 27～9/9日 全米
9月	25日 常務理事会・本部長会議 28日 日本テニス連合会合(日本テニス事業協会)	15～18日 スポーツマスターズ(札幌大会 は中止) 19～22日 全日本東日本大会(岩手) 19～22日 全日本西日本大会(兵庫) 23日 テニスの日(有明イベントは中 止) 30～10/3日 国体テニス競技(福井)	10～16日 WOMEN'S OPEN(広島) 14～16日 デビスカップ WG POボスニ ア・H戦(大阪・韮) 17～23日 東レPPO(東京) 25～30日 JrDC・FC決勝(ハンガリー)

月	主な業務活動	主要イベント	
		国内	国際
10月	18日 常務理事会・本部長会議 28日 第14回プロフェッショナル教育研修会①(有明)	1~11日 全日本ベテラン(名古屋・博多) 5~7日 全国実業団A大会(広島) 11~14日 大学王座(松山) 12~14日 RSK Jr(岡山) 16~17日 ピンクリボン全国決勝大会(神奈川) 24~11/4日 全日本選手権(大阪) 30~11/4日 U15中牟田杯選抜Jr(福岡)	1~7日 ジャパンオープン(調布) 15~21日 スーパーJr(大阪・靱) 21~28日 WTA Tour Champ(シンガポール) 23~28日 ジャパンオープンJr(名古屋)
11月	3日 第14回プロフェッショナル教育研修会②(大阪) 15日 常務理事会・本部長会議	4~6日 ねんりんピック(富山) 8~10日 全国レディース(東京) 25~12/2日 学生室内(大阪・江坂) 30日 JTAディナーパーティー(東京)	12~18日 ATP Tour Finals(英国)
12月	9~10日 公認指導者講師競技別全国研修会(NTC) 9日 第14回プロフェッショナル教育研修会③(味の素NTC) 11日 常務理事会・本部長会議 13~21日 公認S級エリートコーチ養成講習会 講習I(NTC) 16~17日 公認S級エリートコーチレベルアップ研修会 18日 臨時理事会 25日 日本テニス連合会合(日本テニス事業協会)	1日 悠遊テニス会 6~9日 日本リーグ1st(神奈川・兵庫) 13~16日 全日本Jr選抜室内(兵庫)	
1月	11日 常務理事会・本部長会議 12~14日 公認B級審判合同講習会(札幌) 14~18日 公認コーチ前期専門科目講習会(NTC) 28~29日 公認教師(認定校)専門科目講習会(NTC)	18~20日 日本リーグ2nd(神奈川・兵庫)	14~27日 全豪
2月	15日 常務理事会・本部長会議 15~23日 公認S級エリートコーチ養成講習会 講習II(NTC) 19~21日 公認コーチ後期専門科目講習会(NTC)	8~10日 日本リーグ決勝(神奈川) 13~24日 全日本室内(京都)	1~3日 デビスカップ2019 Qualifying 中国戦(広州) 10~11日 フェドカップ2019 WGII 1R(北九州)
3月	7日 常務理事会・本部長会議 8日 日本テニス連合会合(日本テニス事業協会) 12日 平成30年度通常理事会 19日 平成30年度臨時評議員会	2~3日 JTAカンファレンス(味の素NTC) 20~26日 選抜高校(福岡)	

# 2019年度事業方針

2018年度は、有明改修による主催大会会場変更に伴う緊急予算の編成、スポーツ界での不祥事の多発、国際大会フォーマット改革等といった多くのチャレンジに遭遇した年となった。同時に、日本テニス界一体となった協働、さらには大坂なおみ選手のグランドスラム2大会連続優勝という歴史的快挙もあり、テニス界は明るい形で前進し、また本協会としても将来に向けた活動に専念できた年ともなった。

2018年3月に採択された日本のテニスの中長期戦略プランの具体化に向けた情報共有が、当協会以外の団体も含む日本テニス界全体に対して進展し始め、また、将来を担うジュニア選手の競技環境改善のインフラとして期待される全国ジュニア登録制度「ジュニアJPIN」の試行運用が開始され新年度の本格運用の途が開けつつある。これらと相まって、試合における安全確保の一環としてJTA認定トレーナー制度の導入、テニス・オーストラリアとの協力覚書の締結が実現した。こうして、本協会が公益法人化以降取り組んできたテニス普及・振興のための環境整備は2018年度までに一定の進展を見ることができ、本協会の事業活動も新年度から新たなフェーズに入ることとなった。

オリンピックを1年後に控え、2019年度はその準備を万全に行うことが重要なことはいまでもない。しかし、新たなフェーズに入るという意味は、2018年度に策定された日本のテニスの中長期戦略プランに沿ってその施策の実現化、具体化に入る年となる認識が重要といえる。それは正しく、東京オリンピックの次のパリ、更にはロサンゼルスを見据えたRoad to Parisへの始まりの年となる。中長期的には、「普及・育成・強化」の三本柱とコート・コーチ・コンペティションの3

つの「C」の様々な組み合わせを充実・強化していく年となるが、当面、これまで意識づけが遅れていた「育成」が大きな課題となる。2019年度の施策と予算については、このような全体的視点からの執行が重要となる。

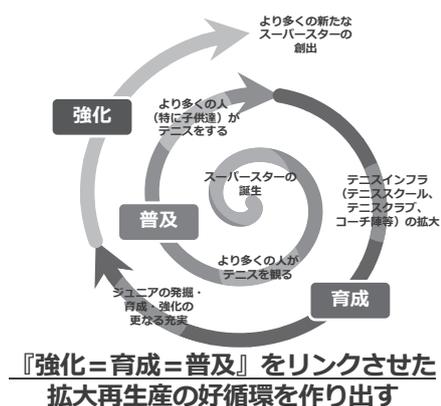
個別的には、「普及」では国民が身近にテニスを楽しめる環境作りとテニス人口裾野拡大に向け、TENNIS PLAY & STAYの市区町村レベルへの浸透を推進する。また、学習指導要領の改訂に伴う小学校での体育教材としてのテニスの採用に向けた取り組みを引き続き重点施策とする。「育成」では、日本のテニスの中長期戦略プランの具体化として、味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）がジュニア選手にとって憧れの地である性質を活かし、中央と地方との育成分野での協力活動の第一弾として11歳以下ジュニアに照準を当てたNTC体験合宿を「Road to NTC合宿」と銘打ち実施する。併せて、ジュニア選手の競技環境向上を目的としたジュニアJPINの本格運用を開始する。「強化」では、2020東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、全種目出場とメダル獲得を目標に掲げ、ナショナルメンバーを中心とした選手強化プログラムを実施する。また、2024パリ五輪以降につながる特別ジュニア強化を代表とした選手強化プログラムを企画実行する。そして、中長期戦略プランに基づく競技会環境の向上に努め、国際トーナメントフォーマット改革への対応に留意して、国際トーナメントの国内開催の維持発展を目指す。

主催競技会開催では、ジャパンオープン、ジャパンウイメンズオープンなどを通して世界レベルのテニスをファンに提供し、両大会の主催を通じて日本テニスの発展に多面的な貢献を

## 日本のテニスの中長期プラン ～全体像～

	<b>Court</b> インフラ・練習環境の整備	<b>Coach</b> コーチの質の向上	<b>Competition</b> 競争環境・試合経験
<b>細字：国内 太字：海外</b>			
<b>強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レベル別のトレセンを全国に戦略的に配置</li> <li>積極的に海外遠征、海外留学もサポート</li> <li>海外テニス連盟とのネットワーク関係構築、海外練習拠点におけるサポート体制構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内における試合環境のグランド・デザイン（構成、カレンダー含む）を書き直す；ITFツアー改革への対応</li> <li>近隣各国（中国、韓国、台湾等）と連携して大会カレンダーを組む</li> <li>海外遠征のサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JPIN制度の整備</li> <li>大型大会の誘致（例：ATP1000）</li> </ul>
<b>育成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレセンは選手（アスリート）の育成は勿論のこと、指導者（コーチ）の育成にもフォーカス</li> <li>海外トップレベルコーチ積極活用、テニス先進国（例：フランス）のケーススタディを参考に、指導者育成システムを構築</li> </ul>		
<b>普及</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Play &amp; Stay</li> <li>学校と連携</li> <li>ヘルスケア・健康の文脈におけるテニスの役割、高齢化社会への対応</li> </ul>		

## どうやって戦略プランを策定し、それを実行に移すのか？



行う。併せて、テニスを取り巻く環境の変化を念頭に、全日本テニス選手権、全日本ベテラン選手権、テニス日本リーグに代表される国内大会の改革登録振興をテニス・ステークホルダーと連携して努める。

「スポーツ・インテグリティ確保」においては、選手、指導者、審判員、トレーナー等へのコンプライアンス関連情報の提供と研修、試合におけるフェアプレイ向上運動、更には熱中症対策を含む試合における安全対策、アンチ・ドーピング活動に引き続き力を入れる。さらに、現行の各種研修内容を時代にマッチしたものへの見直しを行い、JTA研修プログラムを策定し、対象を役職員や専門委員会委員長に広げeラーニングを含む研修プログラムを実施する。さらに、本協会の予算編成及び収支報告作業の精度化と迅速化、更には補助金管理運営面でのガバナンス強化のために財務委員会活動の充実化を図る。

東京オリンピック・パラリンピック競技会場としての有明テニスの森公園の改修は、我が国のテニスインフラ拡充という意味において歴史的な意味を持つ。日本テニスの統轄団体としての責任として、本協会は、有明テニスの森公園のオリンピック・パラリンピック会場としての準備に引き続き係り、併せて、生涯スポーツ、競技スポーツ、観るスポーツそして国際スポーツとしてのテニスの将来を見据え、2020年以降の有明テニスの森公園の有効活用に向けたレガシー提案を行う。その一環としてミュージアム委員会を中心としてテニスミ

ュージアム設置に向けた活動を加速化する。

協会事業活動において、加盟団体との協働と協力団体との連携は欠かせない。新年度においても、加盟団体である地域・都道府県テニス協会との対話に努め、協力団体である日本プロテニス協会、日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟、テニス用品会との日本テニス連合での定期意見交換、全国学生テニス団体を含む協力団体とのコンプライアンス・試合におけるフェアプレイ等に関する情報共有を継続する。また、特に東京オリンピック・パラリンピックへの準備、スポーツ・インテグリティ確保、ダイバーシティ推進施策において、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、日本スポーツ協会そして日本アンチ・ドーピング機構との連携も引き続き重視する。

また、グローバル化施策においては、フランステニス連盟及びテニス・オーストラリアとの間で締結されている協力覚書に基づく具体的協力事業を行うとともに、東アジアの中国・韓国・香港・台湾との協力関係を継続する。そして、東京オリンピック・パラリンピックを翌年に控え、国際テニス連盟と緊密な連携を継続する。新年度もテニス環境等実態調査を行いテニスに関する基本情報を提供し、公式ホームページ及びIR室と広報委員会活動を通じて協会活動情報を発信し、開かれた協会活動を推進する。また英文ホームページを通じた海外向け情報提供を充実する。

財政基盤の強化は公益法人のガバナンス向上に欠かせな

**<各種球技コート用 / トラック用 / 駐車場用>**

## スーパースライントープ

●実用登録2058325 ●優秀発明賞受賞製品

**5倍以上  
引張に強い!**

下のグラフは、同じ50mm巾のテープの引張強さを、材質的に比較したものです。FR.V.(FIBERGLASS REINFORCED VINYL)であるスーパースライントープは、ビニール製に比較して6〜8倍。めったなことでは切れることがありません。

**伸縮2%弱  
精度が高い!**

引張に強く破断しにくいだけではありません。下のグラフに示されているように、細い15mm巾のスーパースライントープでさえ、30kgの加重時の伸びはわずか2%程度。加重がなくなれば、元の長さに戻ります。このため寸法精度の極めて高い敷設工事が可能です。

**氷点下32℃  
厳寒に強い!**

寒くなくてもこわばらないのもスーパースライントープの特徴。施工にあたっては曇りや雨が降らないように、地面にしなやかに沿うので釘が打ちやすく、抜けることもありません。また真冬の屋外でのプレイに際しては、ボールや靴の衝撃にも十分に耐えられます。

**スーパースライントープ 中川くんタイプ**

**50mm巾 (オールラウンド用)**

**引張強さ: 362kg**

まぶしさを防いだツヤ消しの純白  
平頭白釘に対応したフラット面  
厚さ1.3mm

50mm

スリップ防止ライン付

接着強化  
グラスファイバーヤーン15本で強化

霜柱害にも有効な強さがありますが、霜柱に備え、あらかじめラインを引き剥がしておく場合でも釘ごときれいに抜けます(ステンレス釘を使用した場合)。

**黄色もあります**

日本テニス協会 推薦

ガラス・ファイバー工研(株)  
東大阪市加納4丁目8-47  
TEL:072-963-1934

東京立有明テニスの森公園

# 2019年度事業方針

い。公益法人としての認定財務3基準を遵守しつつ、主催競技会の振興、協賛企業の募集、寄附金制度の拡充、長らく据え置かれてきている各種登録料の改定、さらには協会事業運営の効率化等により財政基盤を強化する。2019年度予算は、主要主催大会の有明開催の復活、中長期戦略プランの具体化、東京2020に向けた強化事業、事務所移転等により前年度予算に比べ事業規模の拡大を見込む一方、収支均衡予算を編成し、公益法人に課せられた収支相償基準上の要請とJTA財政の健全性確保に配慮した財政運営を行う。

東京オリンピック・パラリンピック、中長期戦略プランの具体化、JTA創立100周年準備等がもたらす追加的業務に対応するため、事務局の機能強化と事務局における就業環境の改善に引き続き取り組む。2019年6月の本協会事務所の新会館への移転を契機に、常勤・非常勤役職員や委員会メンバーが効率的かつフレンドリーに協働できる環境を構築し、併せて、情報セキュリティ強化に取り組む。2018年度に引き続き、定時評議員会終了後に2018年度個人・団体部門表彰伝達式を実施するとともに、11月末には、ナショナルチームのメンバー選手、日頃お世話になっている協賛企業、大口寄附者、公認推薦会社、その他のテニス関係者の皆様

をお招きし、2019年選手・指導者部門表彰を兼ねたテニスシーズンを締めくくる懇親・交流の機会を設ける。

以上の施策の大前提として、日本テニス界を統轄する中央競技団体として、生涯スポーツ、競技スポーツ、観るスポーツとしてのテニスの発展のための事業を公益目的事業として行い、「フェア・チームワーク・グローバル」を運営指針に、スポーツ・インテグリティ確保に留意した協会運営を継続する。特に、スポーツ統括3団体代表者が加盟団体に発信した2019年2月18日通知「中央競技団体のガバナンスに向けた取組について」に鑑み、本年度中に策定が予定されている「スポーツ・インテグリティの確保に向けたアクションプラン」に基づくスポーツ庁施策への対応体制を整える。加えて、公益法人化以降、本協会が取り組んできたガバナンス、コンプライアンス、試合における安全とフェアプレイの確保に向けた取組を継続する。

2019年度より協会活動が新たなフェーズに入ることを区切りとして、4期8年協会運営を行ってきた畔柳信雄会長は退任し、山西健一郎副会長が新会長に就任すると同時に、その他の役員の世界交代、女性役員の登用を図る。こうして日本テニス協会は、新事務所、新執行陣の下、2019年度に新たな一歩を踏み出す。



AMANDA ANISIMOVA  
アマンダ・アニシモワ  
2018 SINGLES RUNNER-UP  
シングルス準優勝

IT TAKES  
**BELIEF**



WTA  
INTERNATIONAL



花キューピット  
オープン2019



**9.9-9.15**  
(MON) (SUN)

広島広域公園テニスコート



IT TAKES  
**BRAVERY**

SU-WEI HSIEH シェイ・スーウェイ  
2018 SINGLES CHAMPION  
シングルス優勝



MIYU KATO & MAKOTO NINOMIYA  
加藤未唯 & 二宮真琴  
2018 DOUBLES RUNNERS-UP  
ダブルス準優勝



MISAKI DOI  
土居美咲  
JAPAN

NAO HIBINO  
日比野菜緒  
JAPAN

## 北海道テニス協会

- ◆会長：長澤 茂嗣 ◆設立年：1938年
- ◆住所：北海道札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1
- ◆メール・アドレス：hta@oregano.ocn.ne.jp

### 平成30年度事業活動について

平成30年度も中学校テニス推進、TENNIS P&S、各種大会運営などを行い、また競技力向上についての再検討を行いました。

中学校テニス推進については今年も北海道中学校テニス選手権（全日本予選）を既にテニス部がある学校を対象に開催しました。また北海道中学校テニス団体戦大会の地域予選及び全道大会を行い、まだテニス部が無い生徒も学校の代表として大会に出場出来る機会を作りました。両大会とも毎年のように参加選手のレベル向上が見られています。

TENNIS P&SはJTAからの補助金を活用し、複数の都市に貸出し用の用具セットを置き、各地での講習会等の自主的な開催を図ることが出来ました。

競技力向上についてはより効率的な強化・育成について検討を行いました。ジュニア選手については対象選手の絞り込みについて、またホームコーチへのサポート方法を検討しました。

### 令和元年度事業計画について

今年も中学校テニス普及、TENNIS P&Sの普及、また競技力の向上、各種大会の円滑な運営を図っていきます。

中学校テニス普及については外部指導者派遣・推薦の準備と先生を対象とした指導講習会の開催を進めていきます。また北海道中学校テニス選手権（全日本予選）、北海道中学校テニス団体戦大会の地域予選及び全道大会を開催し、中学生が学校の代表としてプレーをする機会を作ります。TENNIS P&Sについては多くの講習会が開催できるよう、指導者の充実を図っていく予定です。

競技力向上についての平成30年度に検討した構想を実際の活動としていきます。鈴木貴男、小畑沙織を超える選手を育てることを目標とし、14歳以下のジュニア選手に重点を置き強化を行っていきます。またホームコーチへのサポートも重点目標とします。

## 東北テニス協会

- ◆会長：長井 健 ◆設立年：1983年
- ◆住所：秋田県秋田市八橋運動公園1-5(秋田県スポーツ科学センター3F)
- ◆メール・アドレス：jimukyoku@tohoku-ta.jp

### 平成30年度事業活動について

平成30年度東北地域の全国大会としては、福島県（会津若松市）で全国実業団ビジネスパル・テニスが8月に開催されました。ジュニア強化では東北協会継続事業の北東北・南東北のジュニアキャンプ強化を例年通り6月に実施。

毎年ごとに各県での取り組みが浸透し定着のTENNIS PLAY & STAYは各種イベント、教室、講習会と合わせて実績を積み重ねて来ており、今後の課題として重要な指導者育成とスタッフ確保は急務です。

### 令和元年度事業計画について

令和元年度は東北地域での全国大会開催予定はありませんが、ベテランD大会で新設大会となる第1回みちのくベテラン選手権大会が山形県（天童市）にて開催予定でベテランテニスの更なる盛り上がりが見込まれます。

2020年度に第28回日韓中ジュニア大会が秋田県（秋田市）にて開催予定で、その開催に向けた大会準備を前年度より対応。

低年齢のテニス人口拡大に貢献のTENNIS Play&STAYについては、各県とも連携を図り各種イベント、教室、講習会を活用しながら充実させていきたいと考えています。

## 北信越テニス協会

- ◆会長：宮崎 甚一 ◆設立：1975年
- ◆住所：富山市三熊 4-2 池多テニスクラブ 内
- ◆メールアドレス：masa.yamamoto@hb.tp1.jp

### 平成30年度事業活動について

当協会では常任理事会を年2回以上、ジュニア委員会を3回以上開催しJTAの指示確認情報交換、フランチャイズ制の確認や、JTA各委員会、評議員会への出席を依頼し、情報共有に務めております。

30年度は会合有るごとに、ジュニアJPIN導入についての意見交換を重ねましたが、なかなか纏まりませんでした。

2回目の海外合宿遠征を100万円の補助金付きで実施いたしました。タイでの合宿はコーチ陣も充実しており、選手からは好評を博しております。

一般北信越選手権は245人・組 北国ベテラン、北信越ベテラン、軽井沢ベテラン3大会で2200人・組以上の参加があり、主管各県関係者に感謝しております。

7回目となったJTAと地域協会との懇談会を畔柳名誉会長、畠山、水谷常務理事、坂井利彰理事出席のもと開催しました。

### 令和元年度事業計画について

今年度も12月から1月にかけて、ジュニア選手の海外遠征合宿を100万円の予算で各県男女各1名、帯同コーチ2名計12名で計画しております。

### 北信越テニス協会の活動

今年度はジュニアJPINが途中からですが開始されます。地域大会は主管県にお願いしてキチッと対応していきたいと思っております。

中体連問題については、遅れているところもありますが、全国中体連加盟と同時に各県でも対応出来るように各県中体連事務局との連携をお願いしていきます。

TENNIS P&Sについては小学校へのアプローチを心がけ、グリーンボール大会も充実させていきます。

**地域内 県テニス協会の活動紹介**

**長野県**

2021年のインターハイが松本市で開催されることが決定となり、総会において実行委員会が設立され、その準備に取り掛かっております。

**新潟県**

JTAのTENNIS P&Sの特別補助金を活用し各市協会が活発に取り組めるよう独自の助成金を予算化しています。2019年5月に「にいがたトレセン」として、JTAから承認され東日本ブロックに加入出来ました。

**富山県**

JTAカンファレンス2019を受けて、P&Sの普及・育成に関わる公認指導員を対象に伝達講習会を、3月末に米山S級エリートコーチの指導の下開催、43名が受講しました。

**石川県**

石川県テニス協会が設立70周年の節目を迎え、3月9日の祝賀会で、福井専務理事に記念講演をいただき、更なるテニス競技の振興発展を誓いました。

**福井県**

「福井しあわせ元気国体」では、初日台風が通過する中、短縮ゲームで各県選手の皆様にはご協力をいただきありがとうございました。おかげで後の3日間は予定通りの運営ができました。また、新しい試みとして「ライブスコア」を導入し、皆様から好評をいただきました。

**関東テニス協会**

- ◆会長：寺澤 辰磨 ◆設立年：1929年
- ◆住所：東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 朝日生命幡ヶ谷ビル2階
- ◆メール・アドレス：Kta-e.to@abeam.ocn.ne.jp

**平成30年度事業活動について**

当協会の活動の中心は3本部11委員会と隔月開催する常務理事会で十分な打ち合わせをし業務を遂行しております。

関東周辺1都7県の共通する 課題を円滑に運営し、テニスの発展に寄与するよう配慮しています。特に力を入れたことは、(1)関東オープンテニス選手権大会の運営—日本のテニスと共に93回目を迎えました。一般・ベテランの約2000組を超える参加を得て6会場で開催しました。(2)普及と強化—特にジュニアの普及と強化に活動の中心を置き、各都県選抜選手により大学生の協力を得ての合同練習で成果を上げています。

**令和元年度事業計画について**

第93回目を迎える関東テニス選手権大会をはじめ実業団対抗・国体予選など各都県の協力を得て地域のテニス普及と活性化に力を入れていきます。

ジュニアの育成、強化合宿、リフレッシュ講習会など開催し、レベルアップとフェアプレー向上を期していきます。

**地域内都道府県テニス協会の活動の紹介**

東京オリンピック開催に当たり、主要会場である有明コートが当分使用できないため、各都県で会場を確保し運営のレベルアップを期していきます。

**東海テニス協会**

- ◆会長：石川 清 ◆設立年：1929年

**信頼に応える  
試合球「フォート」**



ダンロップ・テニスボール・アドバイザースタッフ  
松岡修造

**国際大会を支える  
試合球「スリクソン」**



ダンロップ・テニス・アドバイザースタッフ  
マイケル・チャン

**国内販売数量シェアNo.1テニスボール。**

※2017年硬式テニスボール年間国内販売数量ベース/出典：(株)矢野経済研究所 小売店実売動向調査「YPSテニスデータ」2018年1月現在

販売元：株式会社ダンロップスポーツマーケティング テニス営業本部 〒108-0075 東京都港区港南1-6-41 お客様専用フリーダイヤル 0120-301129 (10:00~12:00 13:00~17:00 ※平日のみ)

製造元：住友ゴム工業株式会社



△開封時、指先は切り口で指をケガする恐れがありますので、缶のフタや缶の内側に直接手を触れないでください。

<https://sports.dunlop.co.jp/tennis/>

◆住所：〒474-0836 名古屋市千種区菊坂町2-2シャトレータカギ3A

◆メール・アドレス：Toukai-tennis@mte.biglobe.ne.jp

## 平成30年度事業活動について

平成29年度同様ダンロップ東海中日選手権、東海毎日・中日ベテラン選手権、東海中日ジュニア選手権など19大会（一般・ベテラン・実業団11、ジュニア8）を主催し、延べ5000人余の参加者を得ました。しかし参加者は前年比△400人と年々減少傾向にあることが課題となっています。

強化事業としては東海地区ジュニア育成強化合宿を毎年持ち回りで開催しています。本年度は三重県で開催し選手の強化を図るとともに、ナショナルチーム指導者講習会に指導者を派遣し資質・技術の向上を継続しました。

競技成績では東海4県のジュニアの活躍が目覚ましく団体では高校選抜で四日市工業が、国体では愛知少年女子が優勝をはじめ、個人においても14種目において全国優勝する活躍を見せてくれました。これは各協会の地道な強化活動の現われと感じています。

## 令和元年度事業計画について

今年度は新たにベテラン大会を追加し20大会を運営していきます。ジュニア強化事業は継続して岐阜県で開催予定としています。また各県協会、委員会との情報交換会を定期的に開催し東海地区がより一体となって普及・育成・強化・大会運営力の向上を推進していきます。

一方、大会参加者の減少は大きな課題です。特にジュニアトーナメントにおいて減少が顕著に表われてきておりデータ収集による現状分析、要因の把握、課題を明確にして打ち手の検討を進めていきます。

## 地域内都道府県テニス協会の活動の紹介

### 三重県

平成30年4月四日市テニスセンターがオープンしました。8月には高校総体、11月には全豪ジュニア予選ワイルドカード大会が行われ、さらに令和元年8月には世界各国から選手が集まるATP四日市チャレンジャー開催が決定しました。今後新たなテニスの殿堂として期待しています。

### 岐阜県

19年に日本スポーツマスターズぎふ清流大会、20年にねんりんピック岐阜の開催を控え準備に余念がありません。また、19年5月の国際イベント「カンガルーカップ国際女子オープン」は30周年を迎え、かつての優勝者伊達公子さんを迎え記念事業を開催します。

### 静岡県

18年度は日本・中国スポーツ交流事業として6月に中国西安市に静岡県テニス協会チームを派遣、11月には西安市チームを招きテニス交流をしました。19年度は蘭州市との交流を予定しています。

### 愛知県

ジュニアトレセン活動は15歳以下の県下ランキング男女上位8名を対象に9月～12月にかけて計5回マッチ練習を中心に練習会を開催しました。

今年度は体調管理・フィジカル面の強化ニーズが出てきているため専属トレーナーをメンバーに加え、メニューを改善してトレセンのレベルアップしていく予定です。

## 関西テニス協会

◆会長：辻 晴雄 ◆設立年：1922年

◆住所：大阪府大阪市西区靱本町2-1-14 靱テニスセンター内

◆メール・アドレス：kansaita@kansaita.jp

## 平成30年度事業活動について

関西テニス協会では、年間35大会を開催し、ジュニア強化練習会等を20回、小学校等でのTENNIS PLAY&STAY、講習会等を2府4県テニス協会の協力のもと円滑に運営を行ってきました。

有明テニスの森の改修工事に伴い、35年ぶりに全日本テニス選手権が靱テニスセンターで開催され、デ杯入れ替え戦、スーパージュニア、全日本テニス選手権とビッグイベントが続き賑やかな秋になりました。

また、テニス大会におけるマナーの低下が問題とされるなかジュニア大会に於きまして、グッドマナー賞を制定し、試合でのマナー向上に努めております。

## 令和元年度事業計画について

今年度も継続して、普及・育成・強化の3本柱中心に活動を行います。普及では5つの小学校でTENNIS PLAY&STAYの出張授業をテニスメーカー、地元テニスクラブの協力を得て行っており、テニス人口の増加に繋げていきます。また、グリーンボール大会の開催促進をはかっています。年々大会数が増えてきており、低年齢ジュニア選手の目標になりつつあります。

ジュニア強化では、15歳以下男女各10名を選出し、元プロ選手、A級コーチ、スポーツ医科学委員会、大学生に協力していただき、強化練習会を年間15回程度開催し、全国大会レベルで上位を狙えるように競技力を向上させていきます。

関西テニス協会のスポーツ医科学委員会は、多くのドクター・トレーナーのご協力をいただき、テニス大会における熱中症・心停止等安全対策を含めてより良いコンディションで選手が望めるように活動をしており、大会を支えてもらっています。

## 地域内都道府県テニス協会の活動の紹介

2021年には、兵庫県でワールドマスターズゲームズ テニス競技、2024年には滋賀国体が控えております。滋賀県テニス協会では、滋賀国体に向けて、ジュニア層の選手強化を進めています。また、2020年高校総体が長浜市で急に開催することになり、役員・審判員の養成を進めています。

## 中国テニス協会

- ◆会長：安東善博 ◆設立年：1977年
- ◆住所：広島市東区光町2丁目9-30竹本ビル305
- ◆メール・アドレス：office@chugoku-ta.jp

### 令和元年度事業計画について

#### I 活動方針

公益財団法人日本テニス協会は2018年度に策定された日本テニスの中長期戦略プランに沿ってその施策の実現化・具体化に入る年となりそれはRoad to Parisへの始まりの年となる。中期的には「普及・育成・強化」の三本柱とコート・コーチ・コンペティションの3つの「C」の様々な組み合わせを充実強化して行く年となる。とあり中国テニス協会も関係スポーツ団体との連携を密にしてテニスを見る人テニスをする人テニスを支える団体に対して中国テニス協会の6つの委員会（行事委員会・普及振興委員会・ジュニア委員会・医科学委員会・ベテラン委員会・広報委員会）を中心にそれぞれのニーズに迅速かつ的確に対応してまいります。

#### II 重点項目

##### ①ジュニア選手育成強化と全国ジュニア登録制度

ジュニア委員会が提唱する「目指せ世界チャンピオン」を合言葉に世界に通じる選手の育成強化と将来を担うジュニア選手の競技環境改善のインフラとして期待される全国ジュニア登録制度ジュニアJPINの運用を行って参ります。

又、試合における安全確保の一環としてJTA認定トレーナー制度の充実を計って参ります。

##### ②TENNIS P&Sを中心とした普及活動

公益財団法人日本テニス協会の事業方針のTENNIS P&Sを中心とした普及活動を中国テニス協会もテニス人口減少の中テニス愛好者の増大を目指しジュニアからベテランまでの幅広い年

齢層に行ってまいります。

##### ③各県テニス協会、関係諸団体との連携及び組織強化の推進

中国テニス協会は目的達成のための事業遂行に当たり当協会の各委員会と各県テニス協会、関係諸団体との連携を密にして幅広い活動を行ってまいります。

##### ④主催主管大会の充実

主催大会主管大会も各関係諸団体と連携をしてより充実した大会にしてまいります。

##### ⑤セルフジャッジ5原則キャンペーンの推進

フェアプレイはスポーツの原点といえる為テニスでのセルフジャッジ5原則を中国テニス協会はプレイヤーの皆様・保護者・指導者・大会主催者の皆様にチェアアンパイアがつかない大会で正しいセルフジャッジを目指してまいります。

上記の項目を2019年度の活動方針と重点項目として取り組んでまいります。各県テニス協会関係者をはじめとして関係諸団体の皆様の厚いご理解とより一層のご支援をお願いします。

中国テニス協会 理事長 津島則之

## 四国テニス協会

- ◆会長：大塚 岩男 ◆設立年：1950年
- ◆住所：〒790-0031 愛媛県松山市雄郡2丁目9-25第1石原ビル106
- ◆メール・アドレス：ehime-ta@nifty.com

### 平成30年度事業活動について

四国テニス協会では、4県の組織が連携・協力して更なるテニスの発展へ向けた活動を推進し、競技力向上と、生涯スポーツとしてのテニスの振興が実を結ぶように努めてきました。愛媛県では、4月にITF愛媛国際オープンの開催、10月に62年ぶりの本県開催と

# 一球が決めるドラマ

この道の先に  
**NIPPO**

ボールのゆくえを固唾をのんで見守る観客。  
コート上で繰り広げられるプレーは、最高のドラマ。  
選手を支えるものは、己の力と周囲の声援、  
そして、最高のプレーを演出するコート。  
NIPPOは、感動と驚きを生み出す空間を、  
最先端の技術で提供いたします。

## 株式会社 NIPPO

本社 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11  
TEL (03) 3563-6711 <https://www.nippo-c.co.jp/>

青丘学院つくば中学校・高等学校テニスコート

なる全日本学生王座決定試合を実施し大いに盛り上がりました。福井国体では、成年男子2連覇、成年女子3位入賞を果たし、総合成績では過去最高の2位という成績を残しました。香川県では、全国実業団対抗テニス大会（BP）四国予選、全国実業団対抗A大会四国予選を実施し、6月にC級審判員認定会兼ルール講習会、市町村でのP&S、11月に指導者講習会とP&Sを合体させた事業を開催しました。徳島県では、全日本都市対抗四国地区予選、四国オープンベテランテニス選手権を開催しました。高知県では、国体四国地域ブロック予選を実施し、超大型台風接近の中、日程を短縮して無事終了することができました。四国地域全体としてP&Sへの積極的な取組を行い、ジュニアの育成・強化を目指して、地域合宿等を実施しました。

## 令和元年度事業計画について

昨年度に引き続き、競技力向上と生涯スポーツとしてのテニスの振興を目標に事業を計画しております。愛媛県では、4月には昨年に引き続きITF ユニ・チャームトロフィー 愛媛国際オープンが開催されました。8月に全国実業団対抗テニス大会（BP）、10月に2回目となる全日本学生王座決定試合の開催に向けて準備を進めています。香川県では、四国テニス選手権大会、全国実業団対抗A大会四国予選を開催予定、11月に指導者講習会の開催を計画、P&Sも昨年同様5～6市町村で事業を計画しています。徳島県では、実業団ビジネスパル四国予選を開催予定、高知県では、全日本都市対抗戦四国予選、四国オープンベテラン選手権を実施します。四国地域全体を通して、P&Sの取組を充実させるとともに、指導者講習会や強化練習会を実施し、ジュニアの育成・強化に力を注いで参ります。

## 地域内都道府県テニス協会の活動の紹介

四国テニス協会の組織としては、各委員会が各県の責任者で構成されており、それぞれの委員長が中心となって、JTAと提携して

多面的に活動しています。役員会においては常に建設的な発言があり、何事にも前向きで積極的に協力していくチームワークの良さがあります。

愛媛県では、えひめ国体のレガシーを活用し、多くの全国大会を誘致するなど、これまで強化してきた競技力を維持し、今後も優秀な選手や指導者が県内に定着し、安心して競技や指導を続けられる環境整備や雇用先の充実に努めて参りたいと思います。香川県では、第8回を迎える全国選抜中学校テニス大会や3年後の全国中学校総合体育大会の開催予定もあり、強化費を活用して計画的に県外遠征を実施し、選手強化に力を入れたいと考えています。徳島県では、徳島トレセン事業が昨年認められ、引き続きジュニアの育成・強化に努めて参ります。高知県では、2022四国インターハイに向け、日本テニス協会S級エリートコーチを年間4～5回招聘して中学生への強化事業を実施します。

## 九州テニス協会

- ◆会長：本村 道生 ◆設立年：1925年
- ◆住所：福岡市中央区薬院2-14-26 東洋薬院ビル5階
- ◆メール・アドレス：qsyu-tennis.jimu@mountain.ocn.ne.jp

## 平成30年度事業活動について

- ・福岡国際女子テニス2018、久留米市ユニー・エス・イーカップ国際女子テニス2018、九州毎日テニス選手権、全九州クラブ対抗、九州テニス選手権、九州ジュニアテニス選手権等、18大会を開催しました。
- ・全日本ベテランテニス選手権は2016年より名古屋 東山公園テニスセンターと福岡 博多の森テニス競技場での2箇所での開催になりましたが、2017年より35、45、55、65、75、85歳以上の種目が福岡で実施され、2018年から日本商業開発(株) 全日

**テニスコート資材の専門メーカー**

**1963年創業 信頼の豊貿易**

**貿易会社だからこそ実現できる、直接輸入・直接販売**

中間マージンを省くことで、低価格で高品質な製品を直接お客様へ販売致します。

Best Merchandise, Lowest Price

**VUTAKA net**

<http://www.yutakatennis.co.jp>

**豊貿易株式会社**

〒331-0061 埼玉県さいたま市西区西遊馬273-1

TEL 048-622-7121 FAX 048-622-7120

本ベテラン選手権としてさらに充実した運営で開催されました。

- ・U15全国選抜ジュニア選手権（中牟田杯）は改良された大型のドロースタイルボード、会場内案内掲示板等も設置し全国大会としての態勢を整えて開催しました。
- ・テニス人口の裾野拡大を目指した普及活動として、各県協会がTENNIS P&Sに積極的に取り組み実施しました。
- ・グリーンボール使用大会の増設、ジュニア全国大会に向けての九州予選での1回戦からの3セットマッチ実施、U15全国選抜ジュニア（中牟田杯）ではダブルスを64ドロースタイルでの実施等、ジュニア大会の試合形式を充実させました。
- ・協会ホームページを刷新し、各種情報の迅速な提供が可能になりました。

#### 令和元年度事業計画について

- ・昨年より賞金総額がそれぞれ1万ドル増加した福岡国際女子テニス2019、久留米市ユニー・エス・イーカップ国際女子テニス2019ですが、両大会共に大会ホームページをリニューアルする等充実に努め、さらに関係各方面のご理解とご協力を得て本年も無事に開催を実現できました。
- ・全日本ベテランテニス選手権の約半分が名古屋東山公園テニスセンターから福岡博多の森テニス競技場に移設して開催され4年目となり、大会本部機能（サブ本部）の別途設置等、全日本大会として更に充実した運営の実施を目指します。
- ・2020燃ゆる感動がごしま国体の前年で、リハーサル大会として、鹿児島市において第43回全日本都市対抗テニス大会が7月18日~21日の予定で開催されます。
- ・U15全国選抜ジュニア選手権（中牟田杯）、全国選抜高校テニス大会は今年も全国大会として、なお一層態勢を整えて開催の予定です。
- ・各大会の実施にあたり、関係各方面と協力し、会場の整備、ス

タッフ・審判員の技術向上に努めてまいります。

- ・九州各県へ「TENNIS P&S」「Tennis Xpress」を更に浸透させるべく、指導者講習会へ積極的に講師派遣を行います。
- ・ジュニア大会の3セットマッチ実施、グリーンボール使用大会、12、14歳以下のダブルス選手権等を増設しジュニア強化を図ります。
- ・九州地域では博多の森テニス競技場をはじめ、ハードコートに改修された鹿児島島の鴨池庭球場等、整備された会場や、経験豊富なスタッフ等好条件が揃っており、テニスファンに感動を与えるような大会の誘致を積極的に行って参ります。

#### 地域内都道府県テニス協会の活動の紹介

グラスコート佐賀テニスクラブにて『アジアジュニア グラスコートテニスチャンピオンシップ イン 佐賀』開催

- ・アジアテニス連盟、JTA公認大会として、『アジアジュニア グラスコートテニスチャンピオンシップ イン 佐賀』が2016年より、グラスコート佐賀テニスクラブで開催されています。2018年11月24日~30日に開催され、6カ国から11~14歳の男女約50名の選手が参加し、アジアで唯一となる貴重な天然芝でのジュニアテニス国際大会での経験を積んでいます。

北九州市にてフェドカップ「日本対スペイン」開催

- ・フェドカップ by BNPパリバ 2019 ワールドグループ2部 1回戦「日本対スペイン」を2019年2月9日~10日、福岡県北九州市の北九州市立総合体育館で開催されました。フェドカップは九州地域では初開催となり、日本チームは接戦の末惜敗しましたが、北九州市テニス連盟、日本女子テニス連盟福岡県支部のご協力を頂き、2日間に渡り多くの観客動員を実現しました。



やわかな曲線が生み出す 流麗美

RUI-TAKA

座ってみたくなるカタチ 独立キャビン構造

株式会社ルイ高 <http://www.rui-taka.co.jp/>

本社 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪 4-10-12 ルイ高ビル TEL 03-3334-1101  
東北支店 〒982-0012 宮城県仙台市太白区長町南 3-8-10-101 TEL 022-248-7171  
中部支店 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社 2-6-201 TEL 052-701-9521  
関西支店 〒660-0054 兵庫県尼崎市西立花町 2-2-13 ルイ高ビル TEL 06-6416-8858

安心の幅広ステップを採用した RUI-TAKA のテニス審判台

# 一般社団法人 日本ビーチテニス連盟

<p>名称：一般社団法人 日本ビーチテニス連盟                  英文名称：Japan Federation of Beach Tennis                  設立：2013年1月1日                  会長：山田真幹（Masamoto Yamada）                  副会長：杉田高章（Takaaki Sugita）                  住所：〒107-0061                  東京都港区北青山2-11-10 ダイヤモンドマンション1A                  連絡先：電話 03-5772-4205 FAX 03-5772-7706                  Email info@beachtennis.or.jp                  URL：http://www.beachtennis.or.jp/</p>	
--	--

## 1. 歴史

ビーチテニスの日本での普及と国際、国内競技会の開催を目指し、活動してまいりました。このたび本格的活動を行う為、平成25年1月1日に（社）日本ビーチテニス協会と日本ビーチテニス連盟が統合し、（社）日本ビーチテニス連盟を設立いたしました。

日本におけるビーチテニスの歴史は、2007年に一般社団法人日本ビーチテニス協会（東京）、日本ビーチテニス連盟（神奈川）という2つの競技団体が誕生し、ビーチテニスの競技普及の活動が始まりました。その後、2013年1月1日に2つの団体が合併し、「一般社団法人日本ビーチテニス連盟（JFBT）」となり、現在のビーチテニスの競技団体となりました。

日本は立地条件に恵まれ、世界の中でもビーチテニス競技が可能な海岸が多いことで、全国各地への普及が進んで参りました。

ビーチテニス競技は、競技者のみならず、子供から年配の広い世代の方に愛され愛好者が増え、特に砂の上でのスポーツということで、関節や筋肉への負担が少ないスポーツとして健康増進に大きく寄与する可能性を秘めた競技として、今後が期待されています。

## 2. 設置目的

（社）日本ビーチテニス連盟は、日本におけるビーチテニス競技の普及・振興を図り国民の生涯スポーツとしての意識を高め、国民の健康維持のための楽しいスポーツとして一役を担い、そして、なによりこのビーチテニスがスポーツエンターテイメントとしてテニスと共にメジャースポーツとして発展することを目的としています。

## 3. 組織構成

現在、連盟本部組織として「事業本部」「普及本部」「総務・財務本部」の3つの本部から構成されています。事業本部では、国内外の公認大会のスケジュール管理やランキング管理及び大会開催団体への教育指導、指導者育成に向けた指導者講習会の開催をしています。普及本部では、全国各地でのビーチテニス普及に関するサポート、新規活動場所の開拓、全国支部連絡会の事務局業務を行っています。総務・財務本部では年間の収支予算管理及び広報、マーケティング活動の管理を適切に行っています。

その下に全国17の都道府県からなる県支部があります。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 【1】宮城県支部  | 【10】広島県支部 |
| 【2】新潟県支部  | 【11】鳥取県支部 |
| 【3】東京都支部  | 【12】香川県支部 |
| 【4】神奈川県支部 | 【13】徳島県支部 |
| 【5】静岡県支部  | 【14】愛媛県支部 |
| 【6】大阪府支部  | 【15】福岡県支部 |
| 【7】兵庫県支部  | 【16】宮崎県支部 |
| 【8】和歌山県支部 | 【17】沖縄県支部 |
| 【9】岡山県支部  |           |

2017年に13支部が公認され、2018年に宮城県、徳島県、兵庫県、愛媛県の支部が新たに公認されました。今後も各地域におけるビーチテニスの普及の輪を広げる上で、新規支部の設置を推進して参ります。

#### 4. 事業活動について

主な事業は、「事業本部」が主管する、全日本ビーチテニス選手権及び、ITF/JTA公認大会の開催、運營業務。ビーチテニスの国内における競技レベルの向上、国別対抗戦における上位進出を目標とした活動の推進事業。「普及本部」が主管する、全国へ競技普及を目的とした、ビーチテニス体験会の推進活動、県支部組織のサポート、ビーチテニスの環境整備が我々の主なミッションとなります。

また、ジュニア世代の育成事業についても継続的な普及活動を行うことで、徐々に競技としてビーチテニスをする子供たちがでてきました。

2019年の国別選手権（ロシア）では、U14のジュニア選手を派遣させることができ、次の世代につなげることができました。今後、各地でジュニア対象の普及イベントや大会を実施し、ジュニア世代の層の拡大を図ると共に、トップ選手の発掘、育成を推進したいと思います。

#### 5. 日本テニス協会との関わりについて

日本ビーチテニス連盟では、ビーチテニス委員会を通じて、日本テニス協会主催の楽天オープンビーチテニス選手権、全日本ビーチテニス選手権の準備、及び大会運営協力をしてきました。

##### ■2017年度

- ・楽天オープン ビーチテニス大会  
（10,000ドル大会・2,500ドル大会）
- ・全日本ビーチテニス選手権  
（有明テニスの森）

##### ■2018年度

- ・全日本ビーチテニス選手権（鵜沼海岸）

また、例年7月に開催されるビーチテニス国別選手権の代表選考についても委員会を通じて、選手の派遣を行っています。



#### 6. 今の日本テニスそしてテニス界について

現在、日本のテニス界は錦織圭選手や大坂なおみ選手を筆頭に若手選手が多く海外で活躍する時代になって参りました。またジュニア世代も望月慎太郎選手が男子として初めて四大大会のジュニアを制するなど、世界で活躍する選手が増えることでテニス競技を始めようとする子供たちが増えることは、我々にとっても嬉しいことです。この子供たちがビーチテニスを知るきっかけにもなり、ビーチの世界でも世界で戦う選手が増えることは競技団体相互の発展に寄与できるよう取組んで参ります。



# 2018年度 目的別寄附金者芳名一覧 (登録順、敬称略)

## 【一般寄附金・個人】

鈴木みどり	井上雅雄	橋本久美子	島山 康	有坂誠道	片岡洋一	及能茂道	米川 毅	新免泰幸	内山裕之	能城博
占部 務	豊嶋純子	間俊俊雄	堀田正篤	梅林 薫	加藤木讓	寺岡健吾	矢澤 猛	山崎昌生	高橋 甫	根岸修史
国分京子	山中康仁	岡田直子	白木完治	畔柳信雄	兼城悦子	西村眞一	立田 宏	秋田義久	石川誠一	潮 誠司
砂原幸子	角谷秀和	高島幸一	氏家純一	神崎晃代	神永 晋	荻原年・和子	細川啓二郎	後藤高志	堀場雅彦	稲津智子
羽倉信明	藤本茂美	井沢信一	浅見源司郎	岡橋輝和	岸田敏明	原 隆仁	荒川忠秀	飯田博・千恵子	唐澤裕一	

## 【一般寄附金・法人】

株式会社アヲカいわき中央テニスコート	三菱重工業株式会社	株式会社ルネサンス	三河珪石株式会社	テニスショップ株式会社	株式会社テニ工房
ウインザー商事株式会社	株式会社三菱UFJ銀行	一般社団法人爽楽社	株式会社永谷園ホールディングス	明治神宮外苑	
前田建設工業株式会社	香川県テニス協会	埼玉県テニス協会	星野総合商事株式会社		

## 【特定寄附金／TENNIS PLAY & STAY推進プロジェクト・個人】

鈴木みどり	砂原幸子	萩原太郎	岡田直子	梅林 薫	兼城悦子	長岡三郎	市山 哲	安東善博	高橋 甫
飯田 藍	石原法男	角谷秀和	助川卓行	畔柳信雄	及能茂道	原 隆仁	山下経司	下村勝己	堀場雅彦
横川仁美	羽倉信明	橋爪 功	白木完治	緒方丈江	佐野 健	福井 烈	バラカン真弓	辻 弘	唐澤裕一
藤澤 勲	牛込良彦	坂井幸司	石井栄一	織田和雄	副島光彦	古川真佐夫	中村 浩	福島 均	相吉浩史
山下 寛	堀川忠史	田辺慎一	岩淵 元	加藤木讓	寺岡健吾	茂木義三郎	秋元克美	山下 潤	根岸修史

## 【特定寄附金／TENNIS PLAY & STAY推進プロジェクト・法人】

ウインザー商事株式会社	四国テニス協会	埼玉県テニス協会	鎌倉宮カントリーテニスクラブ	三菱電機株式会社
株式会社アースプロテクト	テニススクールグラウンドスラムトーナメント実行委員会	株式会社古川テニス企画	高木工業株式会社	徳島県テニス協会

## 【特定寄附金／強化プロジェクト・個人】

鈴木みどり	渡邊康二	藤本茂美	梅林 薫	及能茂道	長岡三郎	村松敏子	山本 修	下村勝己	秦 怜志	丹羽奈生子
重光知津子	辻本朝男	岡田直子	梅原豊治	佐野 健	七島建志	市山 哲	佐久間光弘	前田ゆかり	三橋大輔	加藤泰彦
宮川直己	堀川忠史	高島幸一	黒澤弘忠	杉田 剛	原 隆仁	猪熊研二	岡本秀貴	福島 均	柏木秀達	
松岡嘉幸	萩原太郎	白木完治	加藤木讓	塚原 穰	福井 烈	山下経司	秋元克美	藤浪 曄	堀場雅彦	
山下 寛	角谷秀和	山下 宏	兼城悦子	豊嶋弘子	宮内優子	金井敬子	漆川美智子	高橋 甫	根岸修史	
香月きょう子	小島昌義	石井栄一	神永 晋	寺岡健吾	宮永俊一	細川啓二郎	黒川光隆・百合	米山政利	小泉弘子	

## 【特定寄附金／強化プロジェクト・法人】

ウインザー商事株式会社	新潟県テニス協会	埼玉県テニス協会	安藤証券株式会社	星野総合商事株式会社
学校法人五大	富山県テニス協会	テイエヌネット株式会社	カレリアセットマネジメント株式会社	中興化成工業株式会社
福井県テニス協会	北信越テニス協会	株式会社虎屋	株式会社大宅映子事務所	
長野県テニス協会	石川県テニス協会	株式会社古川テニス企画	株式会社S & T	

## 【特定寄附金／ジュニア強化・個人】

鈴木みどり	辻村幸子	大島賢三	助川卓行	黄田松子	鈴木 節	平田寿敬	山下経司	秋元克美	三橋大輔
飯田 藍	中根康雄	角谷秀和	青木 弐	加藤木讓	塚原 穰	降旗健人	山本 修	安東善博	石川誠一
重光知津子	石原法男	橋爪 功	池谷正夫	兼城悦子	寺岡健吾	松山時男	佐久間光弘	下村勝己	柏木秀達
宮川直己	辻本朝男	長島 徹	井澤武尚・祥子	及能茂道	橋場義正	村松秀樹	一條和生	高橋 甫	倉田将吾
山下 寛	豊嶋純子	岡田直子	宇野慎一	櫻井國臣	原 隆仁	猪熊研二	草場敏彦	武内邦信・奈穂子	富岡好平

## 【特定寄附金／ジュニア強化・法人】

ウインザー商事株式会社	株式会社アースプロテクト	テニスプレイヤーズクラブ	埼玉県テニス協会	高木工業株式会社	株式会社NIPPO
-------------	--------------	--------------	----------	----------	-----------

## 【特定寄附金／テニスミュージアム・個人】

鈴木みどり	角谷秀和	梅原豊治	笠原浩一	鈴木 節	野波直子	宮永俊一	細川啓二郎	松本鐵一	諸戸典子
重光知津子	小島昌義	浦西淑子	加藤木讓	鈴木穂子	ハサウェイ智恵美	村松敏子	西原俊至	吉永みち子	市川進・道子
占部 務	長島 徹	江澤雄一	金子義明	千本木民子	橋場義正	茂木義三郎	嶋原貞雄	下村勝己	辻野隆三・洋子
戸幡康之	岡田直子	合瀬武久	兼城悦子	武田 彰	林 善樹	横澤規佐良	戸堂博之	前田ゆかり	小川和宏
藤澤 勲	堀田正篤	黄田松子	金田昭彦	辰馬富美子	原 隆仁	吉村幸子	鏡味徳房	福島 均	堀田義男
愛知治郎	林 茂興	大地千秋	神永 晋	塚原 穰	東 秩子	吉村孝子	田辺 明	石黒民子	倉田将吾
辻村勝彦	青木 弐	畔柳信雄	亀山厚也	津山隆三	平野 健	吉本祥生	徳永和夫	安部恭永	白井宏明
小川晶子	安積貴士	呉 美憲	及能茂道	豊嶋弘子	福井 烈	渡邊泰昭・慶子	山辺正顕	神澤俊介	加藤泰彦
砂原幸子	石神初江	小宮有二	境米夫・要子	寺岡健吾	福江孝夫	矢澤 猛	辻野隆三	有澤三治	
羽倉信明	石黒友宏	小形敏夫	佐久間南	長岡三郎	馬瀬隆彦	宮城 淳	荻野日洋子	高橋 甫	
辻本朝男	岩淵 元	萩田忠久	佐野 健	中島一彰	松浦 督	山山 哲	漆川美智子	渡邊寿子	
河村芳高	宇野慎一	織田和雄	庄司秀雄	中村光治	松山時男	猪熊研二	小池 明	近岡雅之	
萩原太郎	梅林 薫	小館公子	杉田 剛	西澤太郎	宮地宗重	土屋金藏	森本令子	諸戸清郎	

## 【特定寄附金／テニスミュージアム・法人】

ウインザー商事株式会社	埼玉県テニス協会	日本女子テニス連盟鹿兒島県支部	株式会社NIPPO	(有) 真方自動車
日本女子テニス連盟	テイエヌネット株式会社	株式会社古川テニス企画	株式会社S & T	
一般財団法人東京ローンテニスクラブ	株式会社虎屋	高木工業株式会社	日本女子テニス連盟兵庫県支部	
一般社団法人爽楽社	日本女子テニス連盟大阪府支部	横浜ガーデンテニスクラブ	とどう歯科クリニック	



# 日本テニス協会のご活動に対するご支援のお願い

JAPAN TENNIS DONATION

## ご支援をお願いする活動内容

**TENNIS PLAY&STAY  
推進プロジェクトに関わる寄附**

特定寄附金

**強化プロジェクトに  
関わる寄附**

特定寄附金

**テニスミュージアム設立に  
関わる寄附**

特定寄附金

**テニス全般の  
発展のための寄附**

一般寄附金

お問い合わせ

公益財団法人日本テニス協会 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 Japan Sport Olympic Square  
Tel: 03-6812-9271 / Fax: 03-6812-9275 E-mail: donation@jta-tennis.or.jp

## 寄附の手続き

ネット  
決済

ご寄附は 1口1000円 から何口でも可能です。一回の寄附と毎年の寄附が選べます。下記のURLよりお申し込みください。

<https://fundexapp.jp/jta-tennis/entry.php>



寄附金控除の  
ご案内

平成24年4月1日からの公益財団法人への移行により、本協会は税法上の特定公益増進法人となり、更に個人所得税及び住民税の寄附金税額控除適用法人としての認定を受けることができました。これに伴い法人及び個人の皆様からのご寄附について、税法上の優遇措置が受けられるようになりました。

# 2018年度 表彰者リスト(対象期間:2017年4月~2018年3月)

種 類	推 薦 者		表 彰 者	
功 労 賞	JTA推薦	JTA総務委員会	家弓 明丈、畠山 康、平木 理化、吉田 友佳	
	地域推薦	北海道		高崎 明子、山田 直樹
		東北		藤原 公浩(青森県)
		関東		金子 義明(東京都)、鶴岡 美津子(神奈川県)、朝見 康夫(埼玉県)、金子 美津江(埼玉県)、木本 知(千葉県)、茂木 弘(群馬県)、鈴木 紀雄(栃木県)、白戸 元文(茨城県)、五味 寛子(山梨県)
		北信越		持留 南州男(富山県)、畑 稔(石川県)
		東海		高木 郁生(静岡県)、神谷 富隆(岐阜県)
		関西		福井 一将(大阪府)、神田 昌住(大阪府)、竹内 宣行(兵庫県)、京田 弘幸(兵庫県)、山田 守(和歌山県)、木村 順(和歌山県)
		中国		松重 見司(山口県)
		四国		高尾 義信(愛媛県)
	九州		吉田 達正	
	協力団体推薦	協力団体	全国中学校テニス連盟	篠田 徹
	JTA推薦	JTA総務委員会 / 全日本テニス選手権歴代優勝者		江口 実沙
		JTA審判委員会 / ボールパーソン		久間 幹太
JTA審判委員会 / ラインパーソン		香川 清香		
JTA医事委員会 / メディカルドクター		北條 達也		
最優秀団体賞	JTA総務委員会		早稲田大学 庭球部女子	
優秀団体賞	JTA総務委員会		城南学院	
特別功労賞	JTA専務理事		畔柳 信雄 渡邊 康二	
	特別感謝状	JTA総務委員会	公認ボール会社	HEAD Japan 株式会社 株式会社デサント
推薦会社			丸菱産業株式会社 UMIウエルネス株式会社	
協賛企業		ソニー生命保険株式会社		
JTA広報委員会		マスコミ及び広告企業	田沼 武男	

# 2018年 選手・指導者部門表彰者リスト(対象期間:2018年1月~12月)

種 類	表 彰 者	選 考 理 由
年間最優秀選手賞	大坂 なおみ	全米オープンで日本人選手として初の四大大会シングルス優勝。世界ランク4位は伊達公子さん、錦織圭と並び日本人選手シングルス最高位。
年間優秀選手賞	錦織 圭	全米オープンで大坂とともに4強入り、同一大会で男女そろって四大大会の4強入りは史上初。1月後半にチャレンジャー大会で復帰してから11位までランキングを戻した。
	ダニエル 太郎	イスタンブール・オープンで、松岡修造さん、錦織圭、杉田祐一に続く日本男子4人目のツアー大会シングルス優勝。
	西岡 良仁	深セン・オープンで、日本男子5人目のツアー大会シングルス優勝。
	マクラクラン 勉	全豪オープンで、1955年全米優勝の宮城淳さん、加茂公成さん以来63年ぶりとなる四大大会4強入り
	穂積 絵莉 / 二宮 真琴	全仏オープンで、日本選手同士のペアでは初の四大大会決勝進出。
	加藤 未唯 / 二宮 真琴	東レPPOで、日本選手同士のペアでは同大会初の優勝。
	国枝 慎吾	全豪オープンで、3年ぶりの四大大会優勝。全仏オープンも制し、世界ランク1位に復帰した。アジアパラ大会でも優勝し、東京パラリンピックの出場権を獲得。
アジア競技大会日本代表チーム	男子ダブルスで鳥袋将 / 上杉海斗組と伊藤雄哉 / 綿貫陽介組、女子ダブルスで加藤未唯 / 二宮真琴組、混合ダブルスで林恵里奈 / 上杉組が銅メダルを獲得。	
ベストフェドカッププレーヤー賞	奈良 くるみ	AOゾーンではカザフスタンのディアス、ワールドグループ2部プレーオフでは英国のワトソンに貴重な勝利を挙げた。チーム最年長選手としても、日本の勝利に貢献。
年間優秀ジュニア選手賞	田島 尚輝	全仏ジュニアで、チェコ選手と組んで男子ダブルス優勝。日本男子としては2006年にアルゼンチン選手と組んで優勝した錦織圭以来。
	内藤 祐希 / 佐藤 南帆	全仏ジュニアでダブルス準優勝
	内島 萌夏	全日本選手権でダブルス優勝。16歳で岐阜8万ドル準優勝。高校生でのアジア競技大会代表は沢松奈生子さん以来。
年間優秀指導者賞	Sasha Bajin	大坂なおみの指導者として、今シーズンの躍進に貢献。
	高田 充	2018年シーズンは西岡良仁、ダニエル太郎を中心に指導し、ツアー大会優勝に貢献。
	茂木 奈津子	2018年シーズンより大坂に帯同。フィジオセラピストとして躍進に貢献。
最躍進賞	綿貫 陽介	アジア競技大会で伊藤雄哉と組んだ男子ダブルスで銅メダル獲得、デビスカップ・ボスニア・ヘルツェゴヴィナ戦で代表デビューと初勝利、楽天オープンでツアー初勝利。
	清水 綾乃	ウィンブルドンで四大大会予選に初出場、全米オープン予選にも出場。自己最多となる年間4大会(久留米6万ドル、七尾2.5万ドル、浜松2.5万ドル、全日本選手権でシングルス・ミックスダブルスの二冠)。



最初に賜杯を手にするのは…

2018・男子シングルス  
《天皇杯》  
伊藤竜馬



新装の有明コロシウムで

2018・女子シングルス  
《秩父宮妃記念権》  
清水綾乃

# 三菱 全日本テニス選手権94th



2018・男子ダブルス《摂政宮杯》  
仁木拓人・今井慎太郎



2018・混合ダブルス《JTA杯》  
清水悠太・清水綾乃



2018・女子ダブルス《朝吹杯》  
内島萌夏・林恵里奈



2019年10月26日(土)～11月3日(日) 有明コロシウム&有明テニスの森公園テニスコート  
<https://www.jta-tennis.or.jp/alljapan.aspx>



スポーツ振興基金  
独立行政法人日本スポーツ振興センター

# 2018年度 決算概要

単位：円

## 経常増減の部

経常収益	
基本財産運用益	1,700,000
受取公認推薦料	46,506,292
受取登録料	61,026,722
事業収益	1,703,210,183
受取補助金等	333,364,812
受取寄附金	33,050,000
雑収益	1,046,863
<b>経常収益計</b>	<b>2,179,904,872</b>

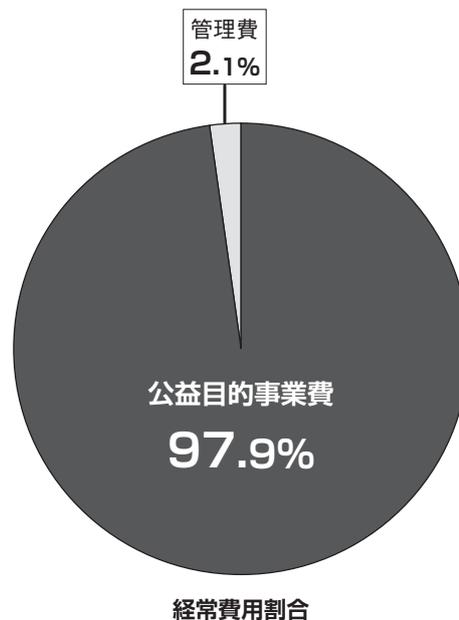
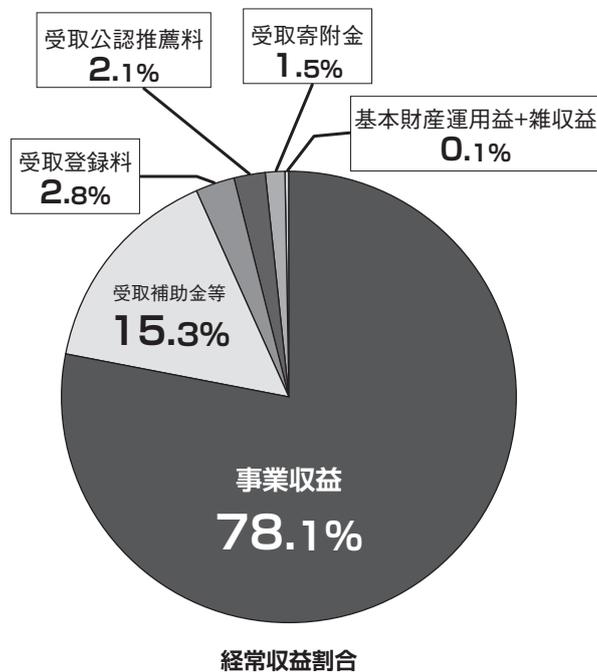
経常費用	
公益目的事業費	2,133,794,733
管理費	45,991,991
<b>経常費用計</b>	<b>2,179,786,724</b>

評価損益等調整前当期経常増減額	118,148
評価損益等計	0
当期経常増減額	118,148
当期一般正味財産増減額	118,148
一般正味財産期首残高	452,282,507
一般正味財産期末残高	452,400,655

## 指定正味財産増減の部

指定正味財産期首残高	187,928,884
指定正味財産期末残高	187,663,384

資産合計	864,733,196
負債合計	224,669,157
<b>正味財産合計</b>	<b>640,064,039</b>



公益目的事業比率 **97.9%**

詳細は当協会ホームページでご覧いただけます

# 正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

スポーツ振興基金助成金事業  
(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	205,985,448	153,392,022	52,593,426
受取協賛金	148,303,375	87,925,250	60,378,125
受取参加料	3,640,000	4,000,000	-360,000
受取広告料	54,000	1,226,915	-1,172,915
受取入場料	28,229,180	30,996,500	-2,767,320
出店放映等収入	24,055,549	28,810,638	-4,755,089
雑収入	1,703,344	432,719	1,270,625
受取補助金等	42,000,000	12,200,000	29,800,000
受取補助金	5,000,000	0	5,000,000
受取助成金	37,000,000	12,200,000	24,800,000
雑収益	0	29,247	-29,247
受取利息	0	12	-12
その他	0	29,235	-29,235
他会計からの繰入額	23,961,037	54,206,148	-30,245,111
他会計からの繰入額	23,961,037	54,206,148	-30,245,111
経常収益計	271,946,485	219,827,417	52,119,068
(2) 経常費用			
事業費	271,946,485	219,827,417	52,119,068
諸謝金	5,118,389	5,456,996	-338,607
スタッフ経費	20,926,190	23,027,131	-2,100,941
会議費	0	26,444	-26,444
旅費交通費	3,420,900	2,787,796	633,104
海外遠征費	79,305	0	79,305
通信費	710,525	1,091,295	-380,770
消耗品費	3,839,936	2,437,925	1,402,011
出版印刷費	5,876,384	8,109,518	-2,233,134
賃借料	21,407,159	25,208,825	-3,801,666
保険料	528,883	774,079	-245,196
租税公課	213,400	0	213,400
大会公認料	2,078,434	2,952,188	-873,754
補助金	3,060,000	0	3,060,000
広報費	4,437,389	6,674,903	-2,237,514
賞 金	52,778,729	52,241,544	537,185
表彰費	1,094,866	2,396,946	-1,302,080
渉外費	0	204,120	-204,120
選手経費	23,908,554	30,898,234	-6,989,680
施設費	92,979,833	46,191,817	46,788,016
委託費	28,703,010	8,588,461	20,114,549
雑 費	784,599	759,195	25,404
経常費用計	271,946,485	219,827,417	52,119,068
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0

# 正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

日本オリンピック委員会委託助成事業  
(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	1,782,530	1,251,117	531,413
受取参加料	1,782,530	1,251,117	531,413
受取補助金等	81,392,504	78,350,122	3,042,382
受取補助金	2,436,504	2,861,122	-424,618
受取助成金	78,956,000	75,489,000	3,467,000
雑収益	0	21	-21
受取利息	0	21	-21
他会計からの繰入額	32,648,821	34,779,332	-2,130,511
他会計からの繰入額	32,648,821	34,779,332	-2,130,511
経常収益計	115,823,855	114,380,592	1,443,263
(2) 経常費用			
事業費	115,823,855	114,380,592	1,443,263
諸謝金	13,944,590	9,910,000	4,034,590
スタッフ経費	1,251,900	0	1,251,900
旅費交通費	17,411,778	13,965,533	3,446,245
海外遠征費	68,436,522	77,656,954	-9,220,432
通信費	625,074	1,215,905	-590,831
消耗品費	55,950	285,829	-229,879
賃借料	3,316,105	1,123,322	2,192,783
保険料	2,710,562	1,750,029	960,533
選手経費	63,216	229,875	-166,659
委託費	170,000	92,000	78,000
雑 費	7,838,158	8,151,145	-312,987
経常費用計	115,823,855	114,380,592	1,443,263
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0

スポーツ振興くじ助成金事業  
(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	7,380,240	4,794,728	2,585,512
受取参加料	7,380,240	4,459,600	2,920,640
雑収入	0	335,128	-335,128
受取補助金等	32,331,000	31,010,000	1,321,000
受取助成金	32,331,000	31,010,000	1,321,000
雑収益	0	9	-9
受取利息	0	9	-9
他会計からの繰入額	7,678,732	7,062,379	616,353
他会計からの繰入額	7,678,732	7,062,379	616,353
経常収益計	47,389,972	42,867,116	4,522,856
(2) 経常費用			
事業費	47,389,972	42,867,116	4,522,856
諸謝金	13,431,479	11,822,500	1,608,979
スタッフ経費	121,354	12,050	109,304
会議費	255,287	98,560	156,727
旅費交通費	16,118,097	15,514,046	604,051
海外遠征費	83,778	0	83,778
通信費	107,190	48,926	58,264
消耗品費	1,835,104	1,604,760	230,344
出版印刷費	464,160	87,480	376,680
賃借料	2,452,938	2,400,042	52,896
保険料	493,298	0	493,298
租税公課	1,000	0	1,000
委託費	9,837,038	8,802,907	1,034,131
雑 費	2,189,249	2,475,845	-286,596
経常費用計	47,389,972	42,867,116	4,522,856
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取補助金等	40,562,227	49,999,961	-9,437,734
受取委託金	40,562,227	49,999,961	-9,437,734
雑収益	0	39	-39
受取利息	0	39	-39
経常収益計	40,562,227	50,000,000	-9,437,773
(2) 経常費用			
事業費	40,562,227	50,000,000	-9,437,773
諸謝金	17,626,875	27,309,319	-9,682,444
会議費	10,300	15,232	-4,932
旅費交通費	2,559,820	4,049,883	-1,490,063
海外遠征費	5,908,807	16,054,882	-10,146,075
通信費	1,240,180	555,879	684,301
消耗品費	1,126,637	311,797	814,840
賃借料	88,872	206,580	-117,708
保険料	14,900	39,900	-25,000
委託費	11,819,322	1,040,000	10,779,322
雑 費	166,514	416,528	-250,014
経常費用計	40,562,227	50,000,000	-9,437,773
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取補助金等	27,500,000	27,499,964	36
受取委託金	27,500,000	27,499,964	36
雑収益	0	36	-36
受取利息	0	36	-36
他会計からの繰入額	92,374	0	92,374
他会計からの繰入額	92,374	0	92,374
経常収益計	27,592,374	27,500,000	92,374
(2) 経常費用			
事業費	27,592,374	27,500,000	92,374
諸謝金	4,373,526	5,275,000	-901,474
会議費	0	67,324	-67,324
旅費交通費	262,036	377,740	-115,704
海外遠征費	15,410,572	16,205,805	-795,233
通信費	26,167	252,160	-225,993
消耗品費	582,041	184,570	397,471
賃借料	467,658	0	467,658
保険料	261,460	225,750	35,710
委託費	5,480,625	4,304,117	1,176,508
雑 費	728,289	607,534	120,755
経常費用計	27,592,374	27,500,000	92,374
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0

# 2019年度 役員名簿

役職	氏名	推薦団体・役職
名誉総裁	眞子内親王殿下	
名誉顧問	盛田 正明	
名誉会長	畔柳 信雄	
名誉副会長	渡邊 康二	
会長	山西 健一郎	理事会推薦
副会長	坂井 利郎	理事会推薦
副会長	武正 八重子	理事会推薦
副会長	辻 晴雄	関西テニス協会会長
副会長	寺澤 辰磨	関東テニス協会会長
副会長	吉田 和子	理事会推薦
専務理事	福井 烈	理事会推薦
常務理事	土橋 登志久	理事会推薦
常務理事	西村 覚	理事会推薦
常務理事	川廷 尚弘	理事会推薦
常務理事	高橋 甫	理事会推薦
常務理事	植田 実	理事会推薦
常務理事	神尾 米	理事会推薦
常務理事	鈴木 宏	理事会推薦
常務理事	長岡 三郎	関東テニス協会理事
常務理事	中西 伊知郎	理事会推薦
常務理事	野崎 拓哉	北信越テニス協会理事
常務理事	橋本 有史	理事会推薦
常務理事	畠山 康	理事会推薦
常務理事	堀川 忠史	四国テニス協会理事
常務理事	水谷 光	理事会推薦

役職	氏名	推薦団体・役職
理事	八木 真理	北海道テニス協会副理事長
理事	浅沼 道成	東北テニス協会副理事長
理事	小川 敏	東海テニス協会理事
理事	松尾 孝義	関西テニス協会理事
理事	安東 善博	中国テニス協会会長
理事	合瀬 武久	九州テニス協会理事
理事	倉光 哲	理事会推薦
理事	坂井 利彰	理事会推薦
理事	松岡 修造	理事会推薦
理事	松野 えるだ	理事会推薦
理事	矢澤 猛	理事会推薦
理事	吉田 友佳	理事会推薦
監事	長尾 武典	関東テニス協会監事
監事	市山 哲	関西テニス協会監事
監事	堤 敏夫	理事会推薦

## 理事待遇

青木 弼／秋田 修廣／石原 弘也／神和住 純／柳原 香積

## 顧問

飯田 藍／猪谷 千春／内山 勝／大島 賢三／佐久間 甫／嶋岡 正充／畑崎 廣敏／細川 護照／松岡 功／南 操二／宮城 淳

## 評議員

### 理事会推薦評議員

鈴木 幸一	(株)インターネットイニシアティブ
吉田 宗弘	(公財)吉田記念テニス研修センター
渡辺 功	公益社団法人日本プロテニス協会
小泉 弘子	日本女子テニス連盟
大久保 清一	公益社団法人日本テニス事業協会
田島 伸一	全日本学生テニス連盟
榎本 正一	全日本学生庭球同好会連盟
岸 徹	全国高等学校体育連盟テニス専門部
黒田 一寿	(一社)全国高等専門学校連合会全国高等専門学校体育大会競技運営専門部
齊藤 与志朗	全国中学校テニス連盟
畑山 雅史	全国専門学校テニス連盟
塚本 直子	日本車いすテニス協会
高津 良英	テニス用品会
山田 眞幹	(一社)日本ビーチテニス連盟

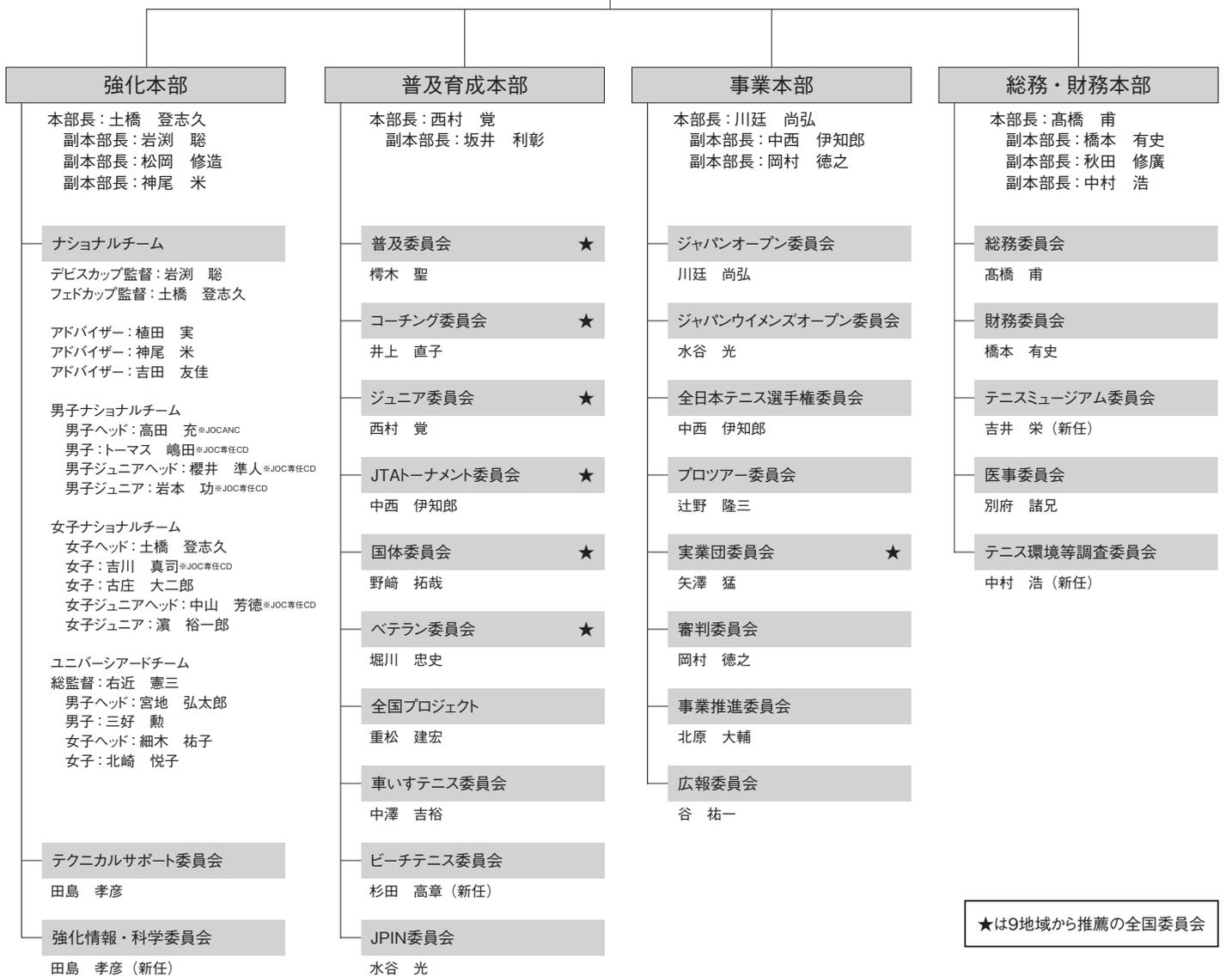
### 都道府県テニス協会推薦評議員

近藤 真章	北海道テニス協会	奥田 豊	京都府テニス協会
高橋 常治	青森県テニス協会	坂井 幸司	大阪府テニス協会
萩庭 純	秋田県テニス協会	滑川 琢也	兵庫県テニス協会
藤島 努	岩手県テニス協会	山田 守	和歌山県テニス協会
松田 陽一	山形県テニス協会	松村 英生	奈良県テニス協会
菅原 宏之	宮城県テニス協会	村本 茂樹	岡山県テニス協会
戸川 稔朗	福島県テニス協会	熊野 義夫	広島県テニス協会
横山 悟	新潟県テニス協会	松重 見司	山口県テニス協会
三村 功	長野県テニス協会	浅倉 俊一	鳥取県テニス協会
井沢 信一	富山県テニス協会	船津 正雄	島根県テニス協会
吉田 俊朗	石川県テニス協会	大野 裕記	香川県テニス協会
矢部 清隆	福井県テニス協会	秋山 修一	徳島県テニス協会
長島 泰治	東京都テニス協会	重松 建宏	愛媛県テニス協会
山田 悠一	神奈川県テニス協会	柏井 之彦	高知県テニス協会
油井 正幸	埼玉県テニス協会	上和田 茂	福岡県テニス協会
青木 義昇	千葉県テニス協会	二口 稔	熊本県テニス協会
澁澤 英男	群馬県テニス協会	小手川 励人	大分県テニス協会
井村 孝一	栃木県テニス協会	菊田 廣	長崎県テニス協会
黒澤 弘忠	茨城県テニス協会	緒方 うらら	佐賀県テニス協会
小林 繁	山梨県テニス協会	稲葉 直寿	鹿児島県テニス協会
伊東 小廣	静岡県テニス協会	秋田 義久	宮崎県テニス協会
岩崎 彌廣	岐阜県テニス協会	新垣 忠男	沖縄県テニス協会
木下 洋子	愛知県テニス協会		
馬瀬 隆彦	三重県テニス協会		
菅原 万智子	滋賀県テニス協会		

### 地域協会推薦評議員

山下 宏	北海道テニス協会
長井 健	東北テニス協会
吉村 隆	北信越テニス協会
平井 誠	関東テニス協会
松本 康夫	東海テニス協会
馬場 宏之	関西テニス協会
津島 則之	中国テニス協会
近藤 明稔	四国テニス協会
本村 道生	九州テニス協会

# 2019-2020年度 組織図・業務分担図



★は9地域から推薦の全国委員会

## 熱中症防止5ヶ条

### [選手向け5ヶ条] (選手自身が気をつけなくてはならないこと)

1. 栄養、休養、睡眠を十分とり、体調を整えましょう。
2. 試合前、中、後は、塩分を含んだスポーツドリンクを十分に取りましょう。
3. 試合前、長く日に当たることは避けましょう。
4. 白や通気性のよいウエアを着ましょう。
5. 汗を拭き、できるだけ身体を冷やしましょう。

少しでも気分が悪いときは、がまんせずに大会スタッフ、大会役員に知らせてください！

### [コーチ・保護者向け5ヶ条] (観戦中に自身が熱中症にならないための注意事項)

1. 帽子をかぶりましょう。
2. 水分と電解質を十分に補給しましょう。
3. アルコール飲料やカフェインを含む飲料は避けましょう。
4. できるだけ日陰に入りましょう。
5. 扇子やうちわなどで体を扇ぎましょう。

### [大会スタッフ向け5ヶ条] (大会運営者がすべき対策)

1. 熱中症の予防方法や危険性を事前に知りましょう。
2. 氷、飲料水、パラソル、担架または車いす、AEDを用意しましょう。
3. WBGT (暑熱環境指標値) または、気温や湿度を計測しましょう。
4. 重傷者が出た場合の対処方法を知っておきましょう。
5. 具合が悪そうな人を見かけたら声をかけましょう。

併せて、本協会では、大会会場で事故が発生した場合のAED対応を含む応急措置の準備及び近隣病院との連携を含む緊急対応体制の整備と関係者への周知の呼びかけも行っています。なお、熱中症予防対策の資料は、次のURLからダウンロードできます。

●日本テニス協会：暑熱下に開催されるテニス競技会でのヒートルールとメディカルルールの運用について  
<https://www.jta-tennis.or.jp/Portals/0/resources/information/integrity/pdf/jta-010-j.pdf>

●環境省：熱中症予防情報サイト  
<http://www.wbgt.env.go.jp/>

●環境省：熱中症環境保健マニュアル  
[http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness\\_manual.php](http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_manual.php)

●厚生労働省：熱中症関連情報  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/nettyuu/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/index.html)

●日本救急医学会：熱中症診療ガイドライン2015  
<http://www.jaam.jp/html/info/2015/pdf/info-20150413.pdf>

担当：医事委員会、総務委員会

## アスリートとサポートスタッフのみなさんへ。

なぜ、私たちにとって、アンチ・ドーピングの  
知識や活動が必要なのでしょうか？

アンチ・ドーピングは、たんに  
「不正する人を見つけ、不当な勝利を防ぐ」ための活動ではありません。

アンチ・ドーピングは、スポーツを成り立たせている  
「みんながフェアであること」を守るためにあります。  
全員がフェアでなければ、そもそもスポーツは成り立たない。  
すべての人が、スポーツに参加し、公平に競い合うことができる。  
その権利を守るために、アンチ・ドーピング活動があります。

そして、もうひとつ。アンチ・ドーピングは、  
「スポーツが生み出す価値」を守るためにあります。  
挑戦する心、相手へのリスペクト、そこから生まれる友情、  
そんな、社会にとっても大切な価値を守るためにあります。

フェアであることを守り、スポーツの価値を守る。  
そのいちばん中心となるのが、アスリートとサポートスタッフのみなさんです。  
みなさんが、フェアであることをつねに誇りに思い、  
その大切さを、世の中に示すこと。  
それこそが、スポーツの発展を支え、よりよい社会をつくる力になります。

フェアであることの誇りを胸に、素晴らしいスポーツの価値を、  
ともに広めていきましょう。



**勝利を超える価値がある**

**スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。**



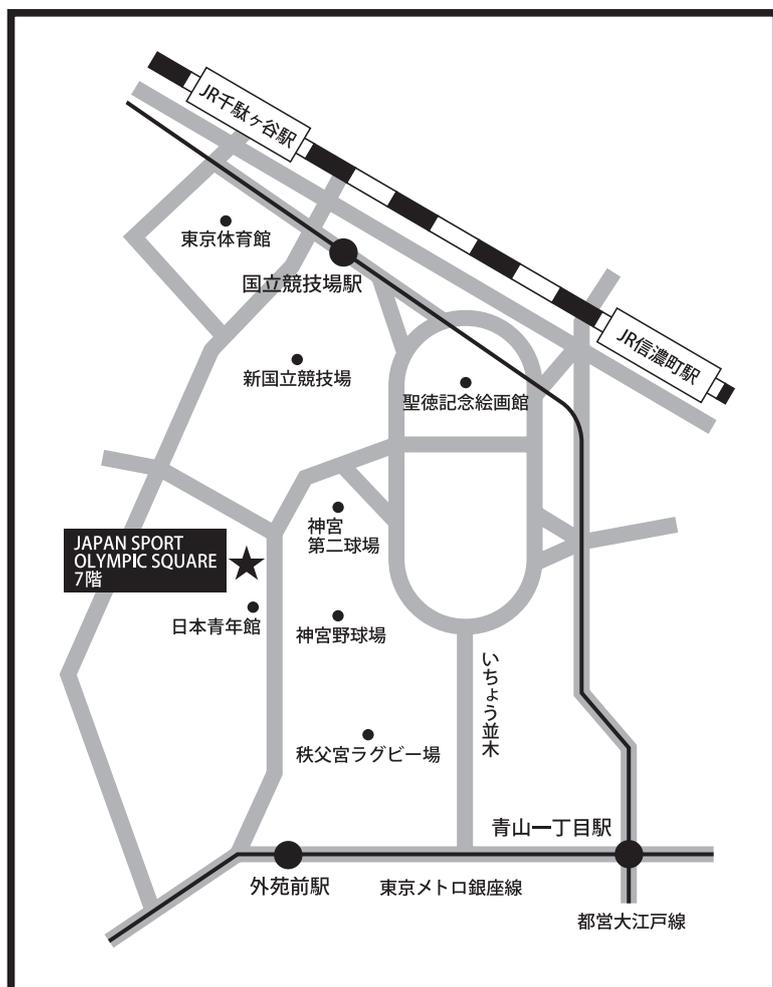
公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

# 公益財団法人日本テニス協会が公認するボール・推薦する会社

2019年8月1日現在

公 認 【ボール】					
<b>住友ゴム工業株式会社 (ダンロップ)</b> DUNLOP FORT SRIXON BABOLAT FRENCH OPEN ALL COURT DUNLOP AUSTRALIAN OPEN DUNLOP ATP	<b>ブリヂストン</b> ブリヂストン・XT8	<b>ウイルソン</b> US OPEN EXTRA DUTY WILSON TOUR STANDARD	<b>HEAD</b> TOUR	<b>PRINCE</b> プリンスポール	<b>ヨネックス</b> TMP80
推 薦					
<b>【ウェア】</b> ミズノ株式会社 株式会社ゴールドウイン ヨネックス株式会社 株式会社デサント  <b>【シューズ】</b> アシックスジャパン株式会社 株式会社ニューバランス ジャパン	<b>【コート】</b> スポーツサーフェス株式会社 株式会社NIPPO 住友ゴム工業株式会社 積水樹脂株式会社 東レ・アムテックス株式会社 大塚ターフテック株式会社 ユニチカトレーディング株式会社 ダイヤテックス株式会社 前田道路株式会社 大嘉産業株式会社 泉州敷物株式会社	<b>【ストリング】</b> 株式会社コーセン 株式会社トアルソ 株式会社ダンロップスポーツマーケティング ヨネックス株式会社  <b>【ネット】</b> アシックスジャパン株式会社 テイエヌネット株式会社 鐘屋産業株式会社 株式会社寺西喜商店 有限会社ミセキネット製作所 株式会社ルイ高 鶴沢ネット株式会社 高須賀株式会社 豊貿易株式会社	<b>【ラインテープ】</b> グラス・ファイバー工研株式会社  <b>【低周波治療器】</b> 丸菱産業株式会社  <b>【健康補助食品】</b> UMIウエルネス株式会社		

## 公益財団法人日本テニス協会 Japan Tennis Association

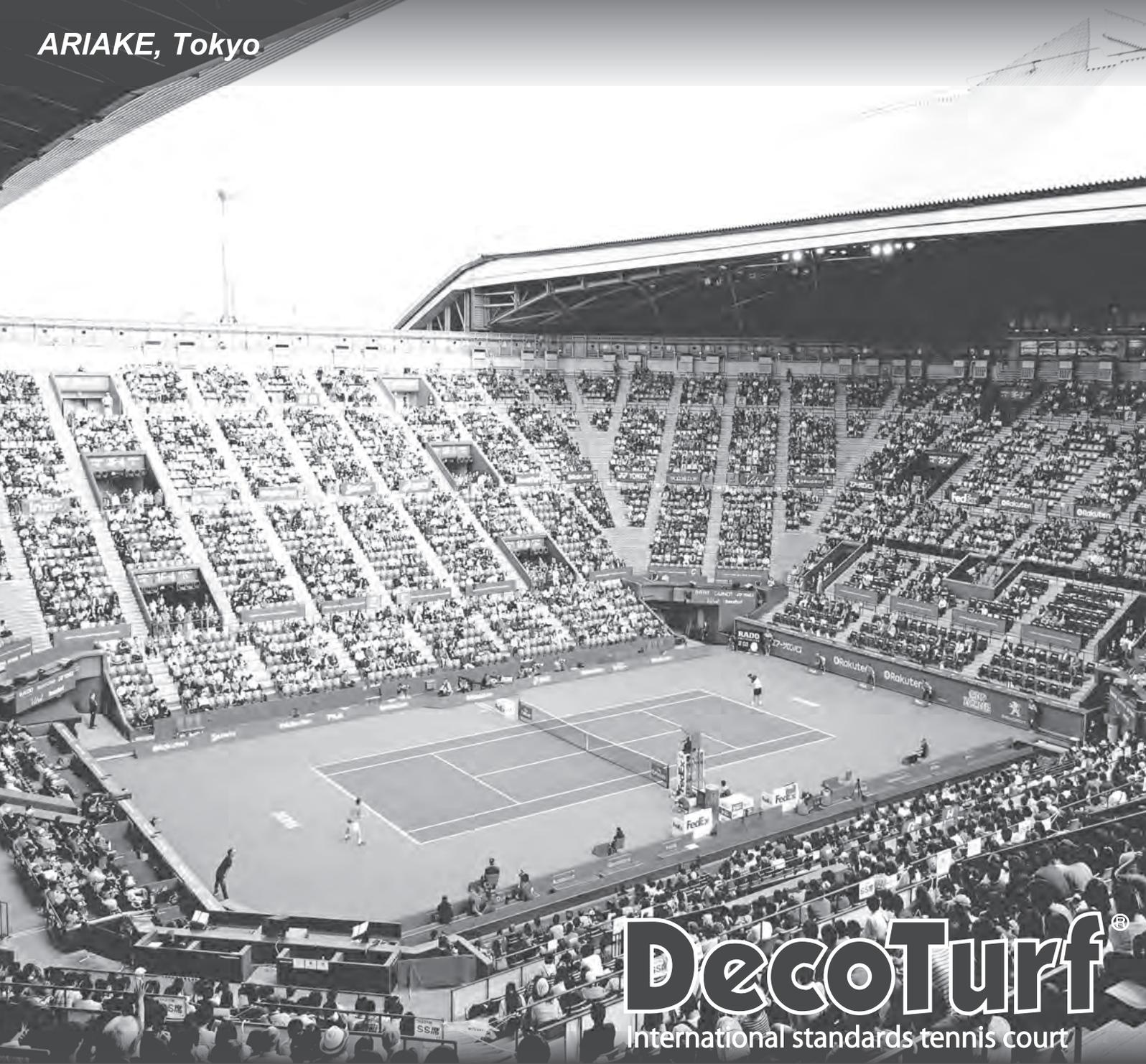


〒160-0013  
 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2  
 Japan Sport Olympic Square  
 TEL:03-6812-9271  
 FAX:03-6812-9275  
 E-mail:mail@jta-tennis.or.jp  
 URL:https://www.jta-tennis.or.jp/

公益財団法人 日本テニス協会  
 JTA アニュアルレポート2019  
 2019年8月23日発行  
 発行人 山西 健一郎  
 編集 IR室・広報委員会

●本誌中の記事、写真、イラスト等の無断転載、複写複製はご遠慮ください。

ARIAKE, Tokyo



**DecoTurf®**  
International standards tennis court



**DECOTURF, A GREAT DREAM**

スポーツサーフェス株式会社

[www.decoturf.co.jp](http://www.decoturf.co.jp)

住友ゴムグループ

本社：東京都中央区日本橋室町4丁目2番10号 TEL. 03-6202-0757

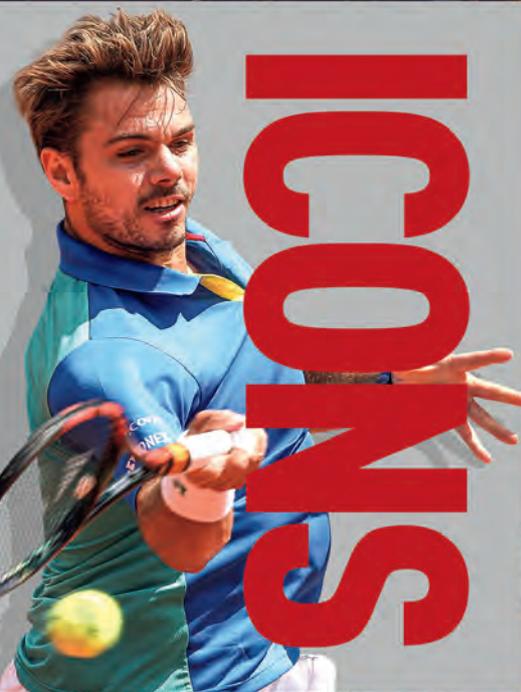
大阪営業所：大阪府大阪市西区立売堀1丁目11番17号 TEL. 06-4390-5074



# TOKYO



# BATTLES



# ICONS



# DRAMA



# POWER



09/28 SAT  
— TO —  
10/06 SUN

ATP  
500

**Rakuten**  
OPEN  
Tennis Championships

[WWW.RAKUTENOPEN.COM](http://WWW.RAKUTENOPEN.COM)



# LOVE IT ALL